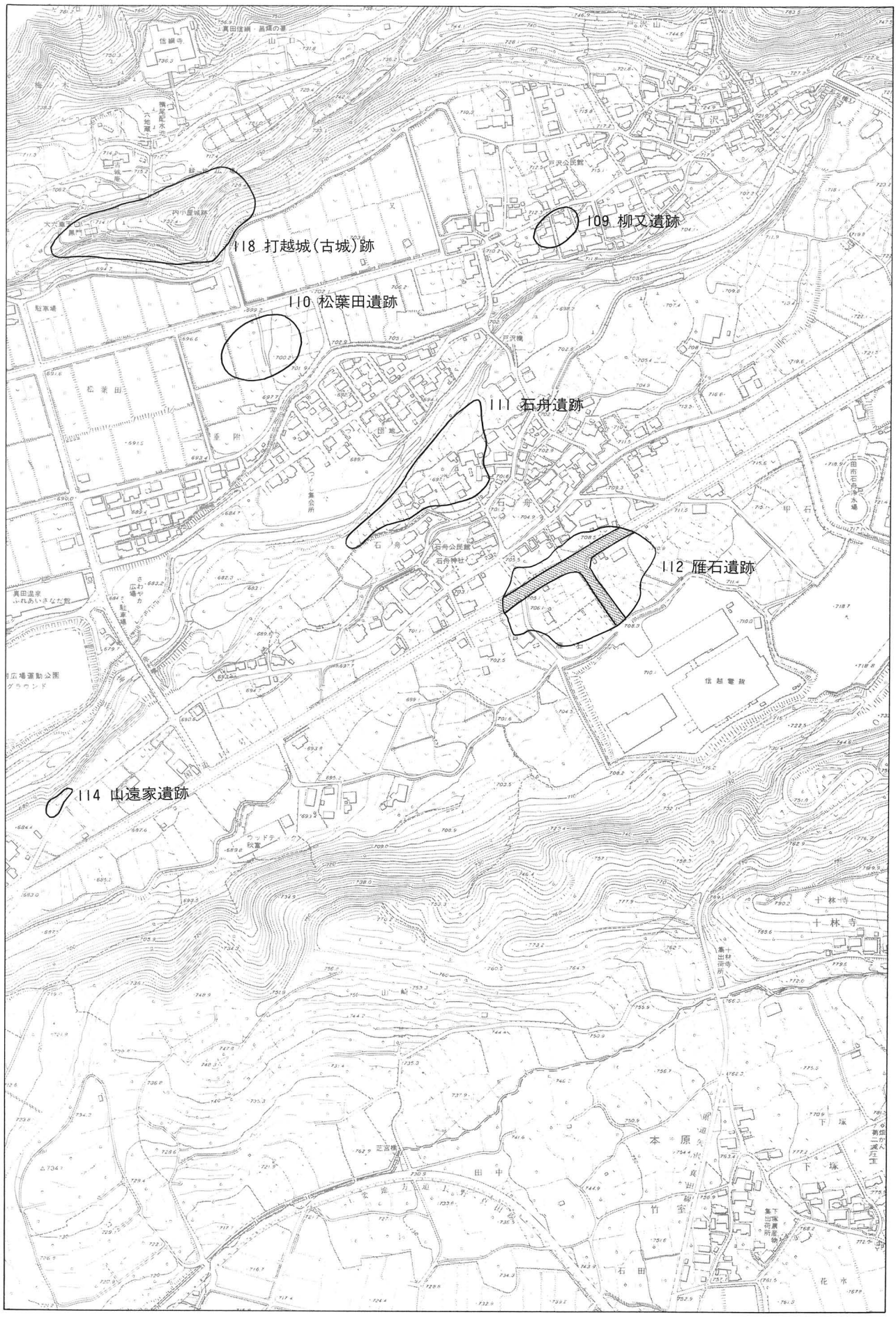
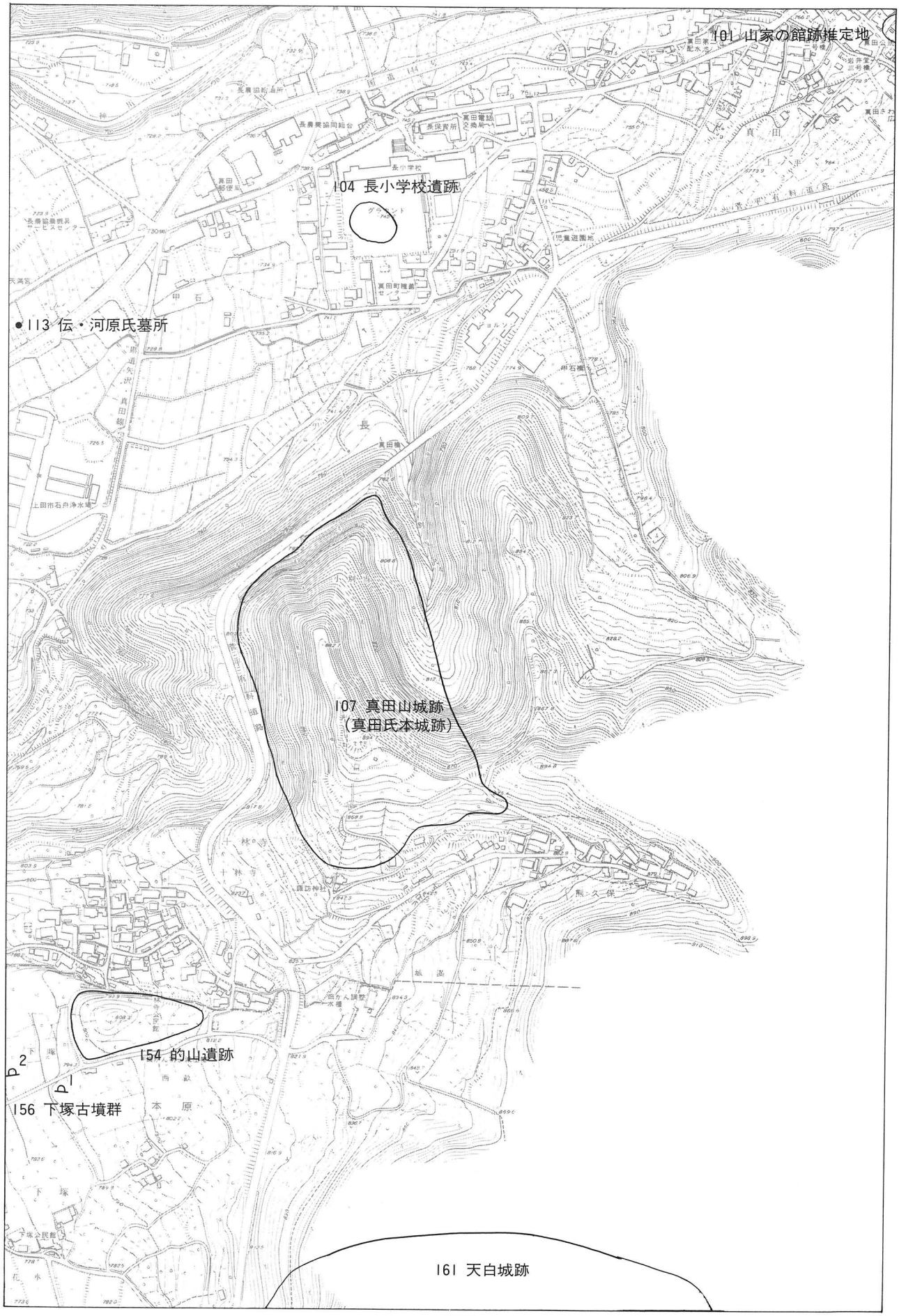
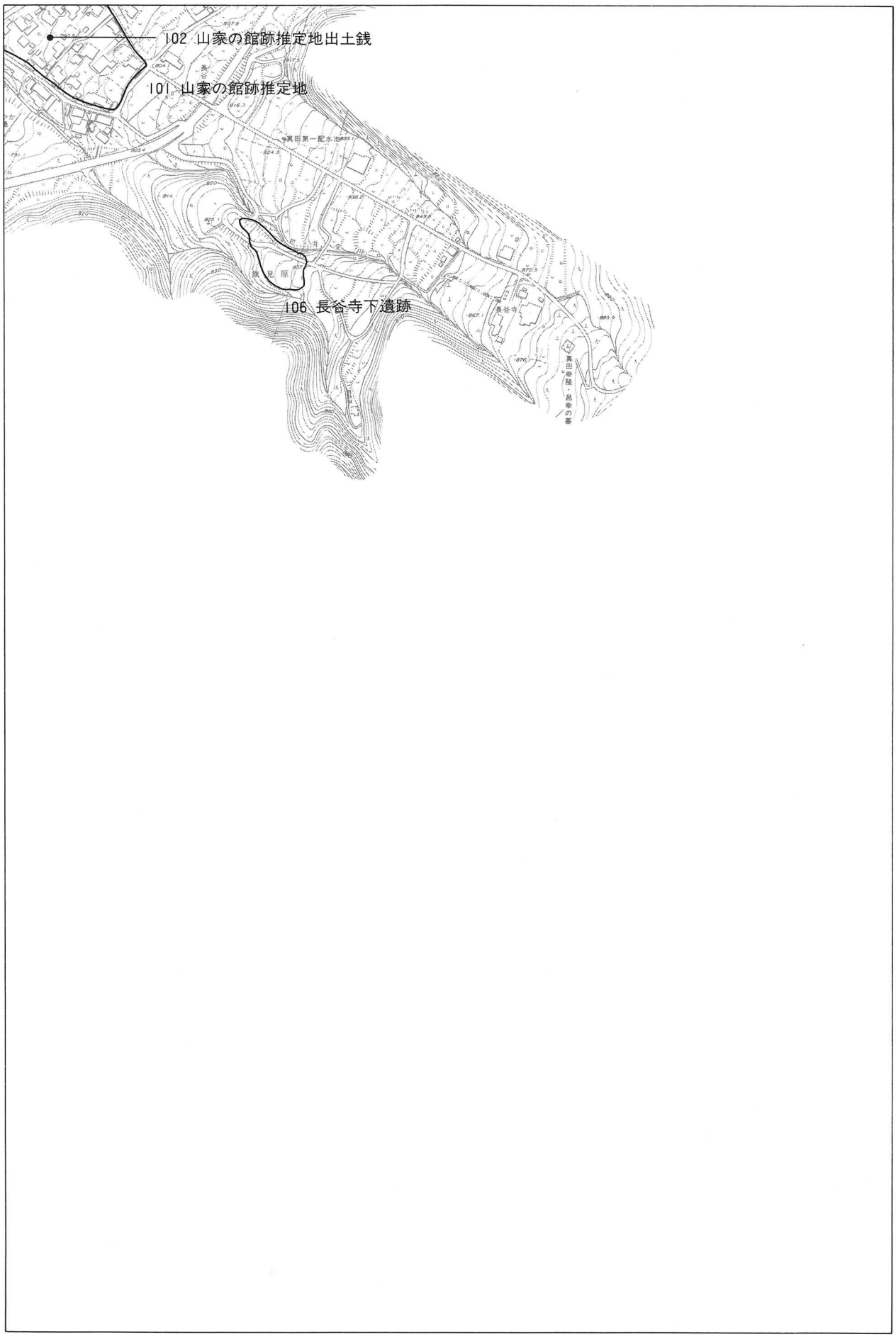

118 打越城(古城)跡
109 柳又遺跡
110 松葉田遺跡
111 石舟遺跡
112 雁石遺跡
114 山遠家遺跡
信越電鉄
十林寺
本原
竹室
石田
花水
下塚
田中
戸沢
戸沢公民館
石舟公民館
石舟神社
集会所
松葉田
真田温泉
ふれあいさなだ館
信綱寺
真田信綱・昌幸の墓
駐車場
団地
甲石
戸沢橋
芝宮橋
十林寺集出荷所
下塚集出荷所
0
300 m

25

26


101 山家の館跡推定地
104 長小学校遺跡
113 伝・河原氏墓所
107 真田山城跡
(真田氏本城跡)
154 的山遺跡
156 下塚古墳群
161 天白城跡
P2
P1

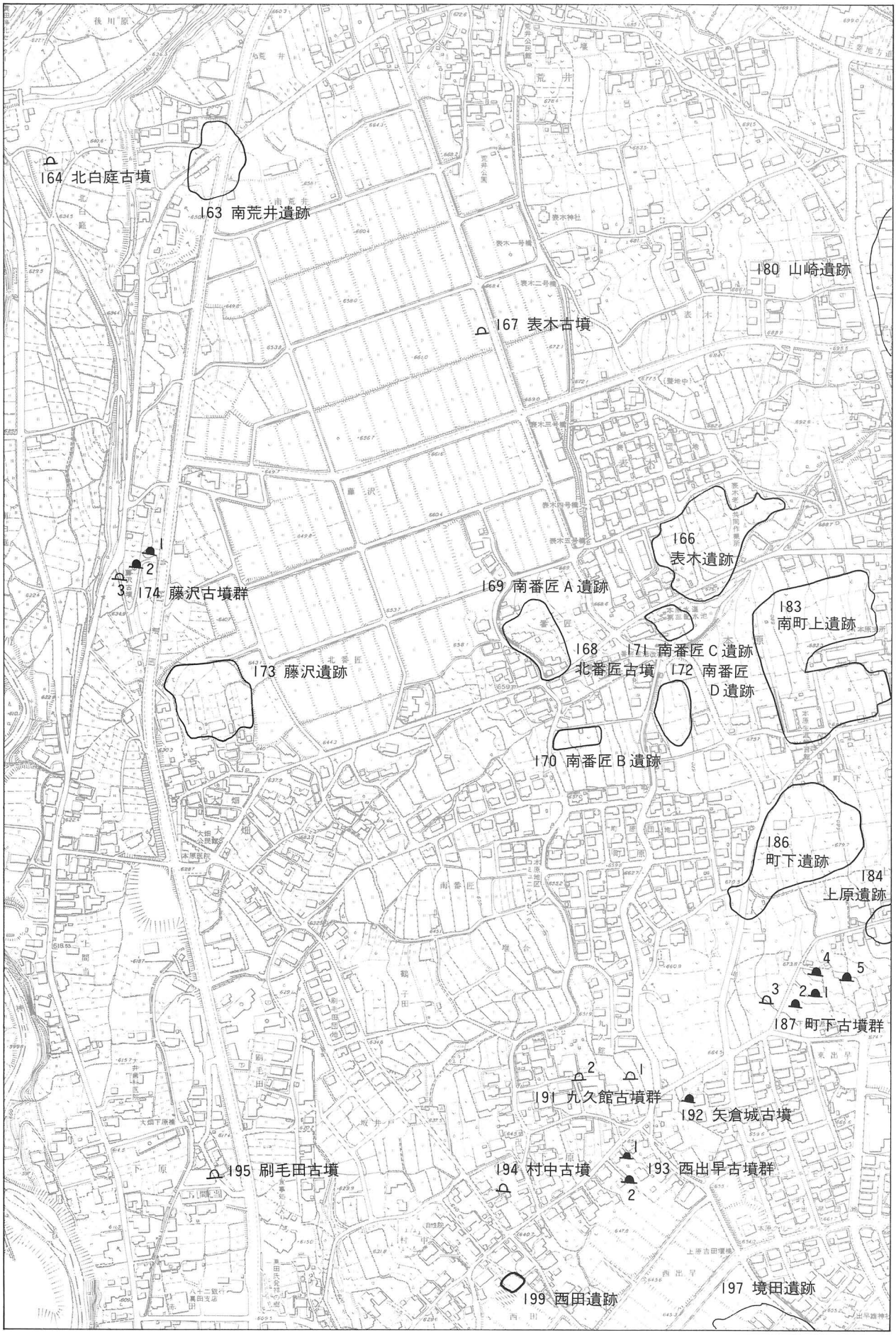

102 山家の館跡推定地出土銭
101 山家の館跡推定地
106 長谷寺下遺跡
真田第一配水池
長谷寺
真田幸隆・昌幸の墓

0 300m

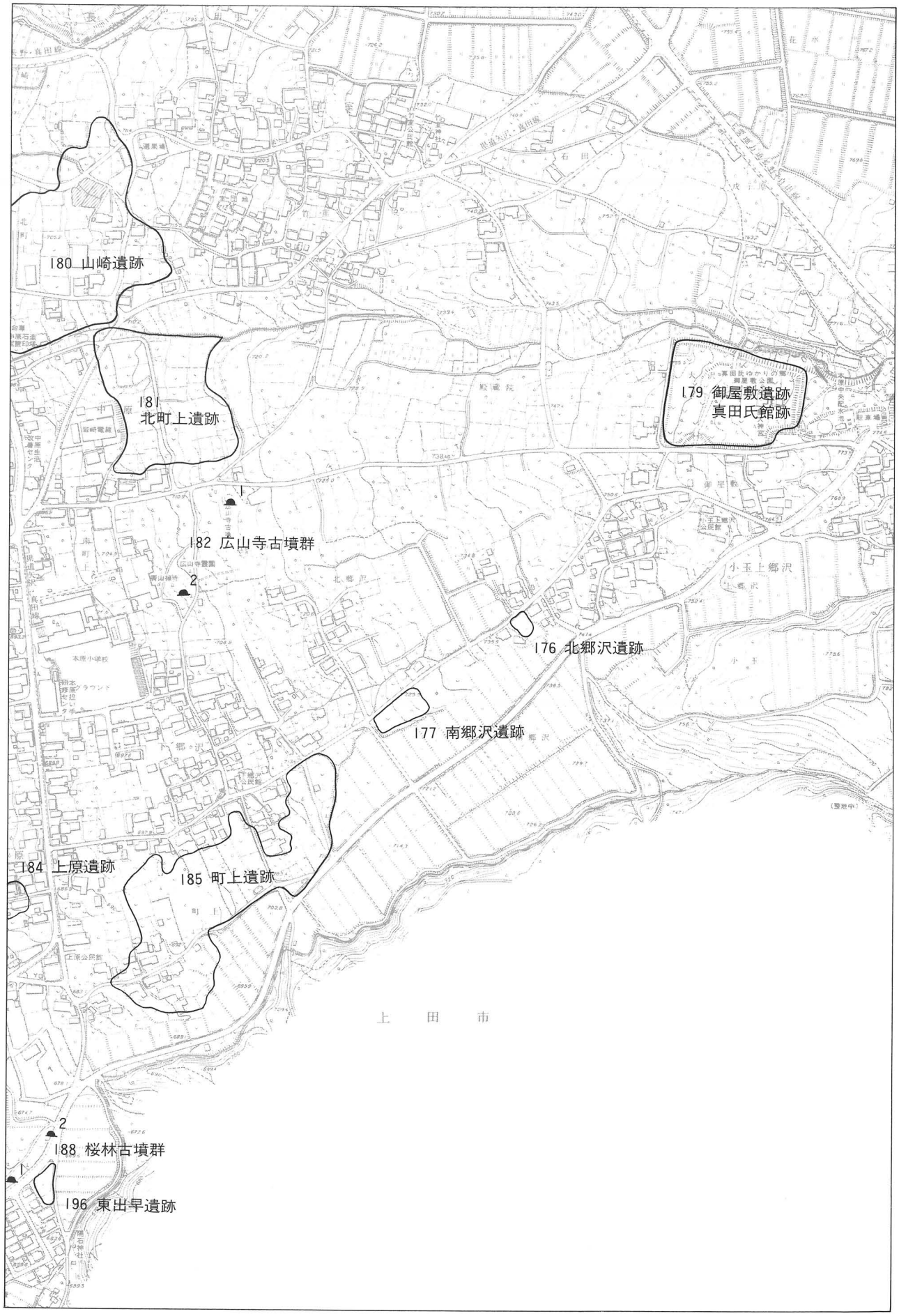
26

24

（本原）荒井／竹室／小玉上郷沢／下郷沢／上原／表木／中原／番匠／大畑／町原／出早



28


180 山崎遺跡
181
北町上遺跡
179 御屋敷遺跡
真田氏館跡
182 広山寺古墳群
176 北郷沢遺跡
177 南郷沢遺跡
184 上原遺跡
185 町上遺跡
上 田 市
188 桜林古墳群
196 東出早遺跡

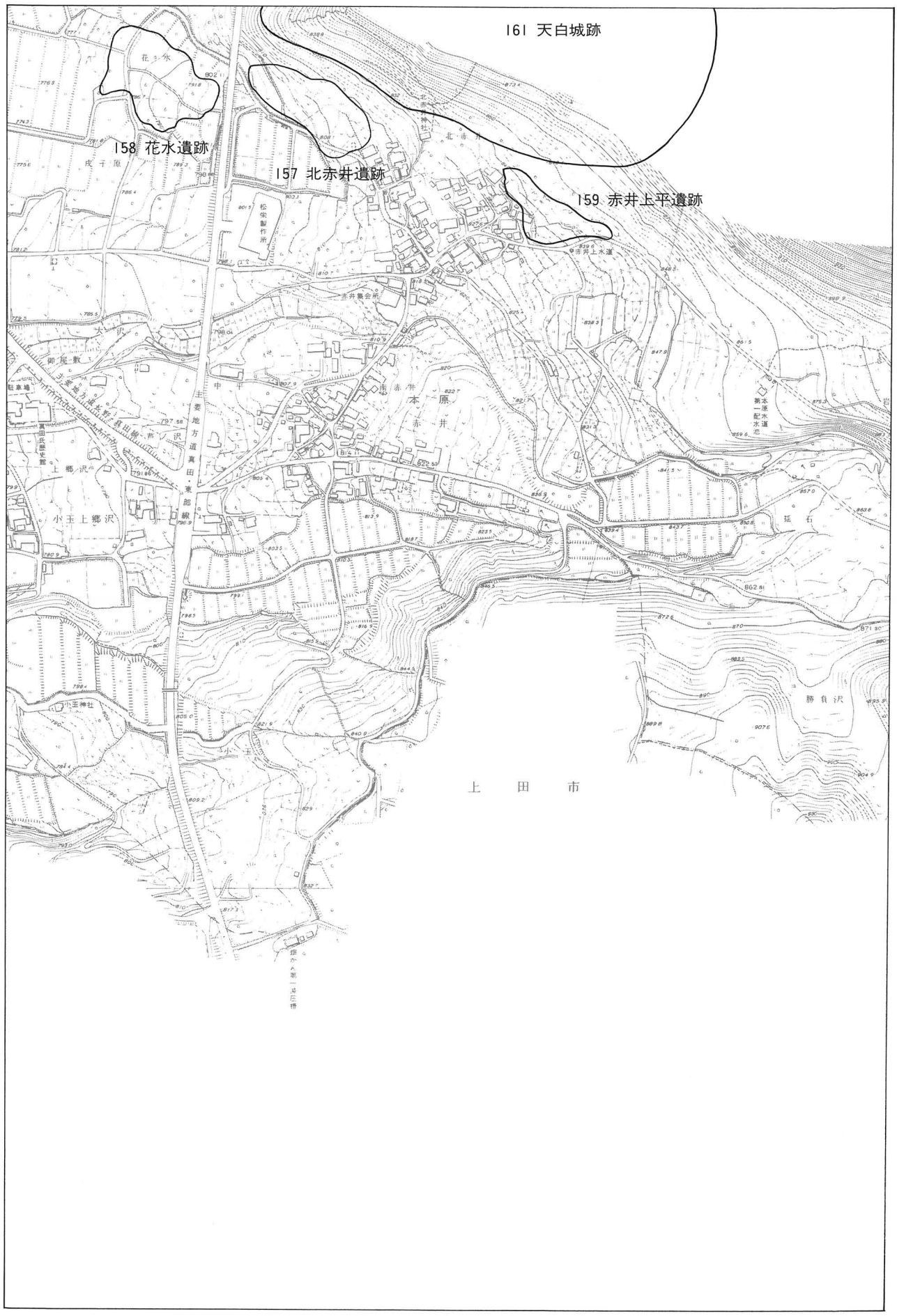
0 300 m

27

25

26

（本原）小玉上郷沢／赤井

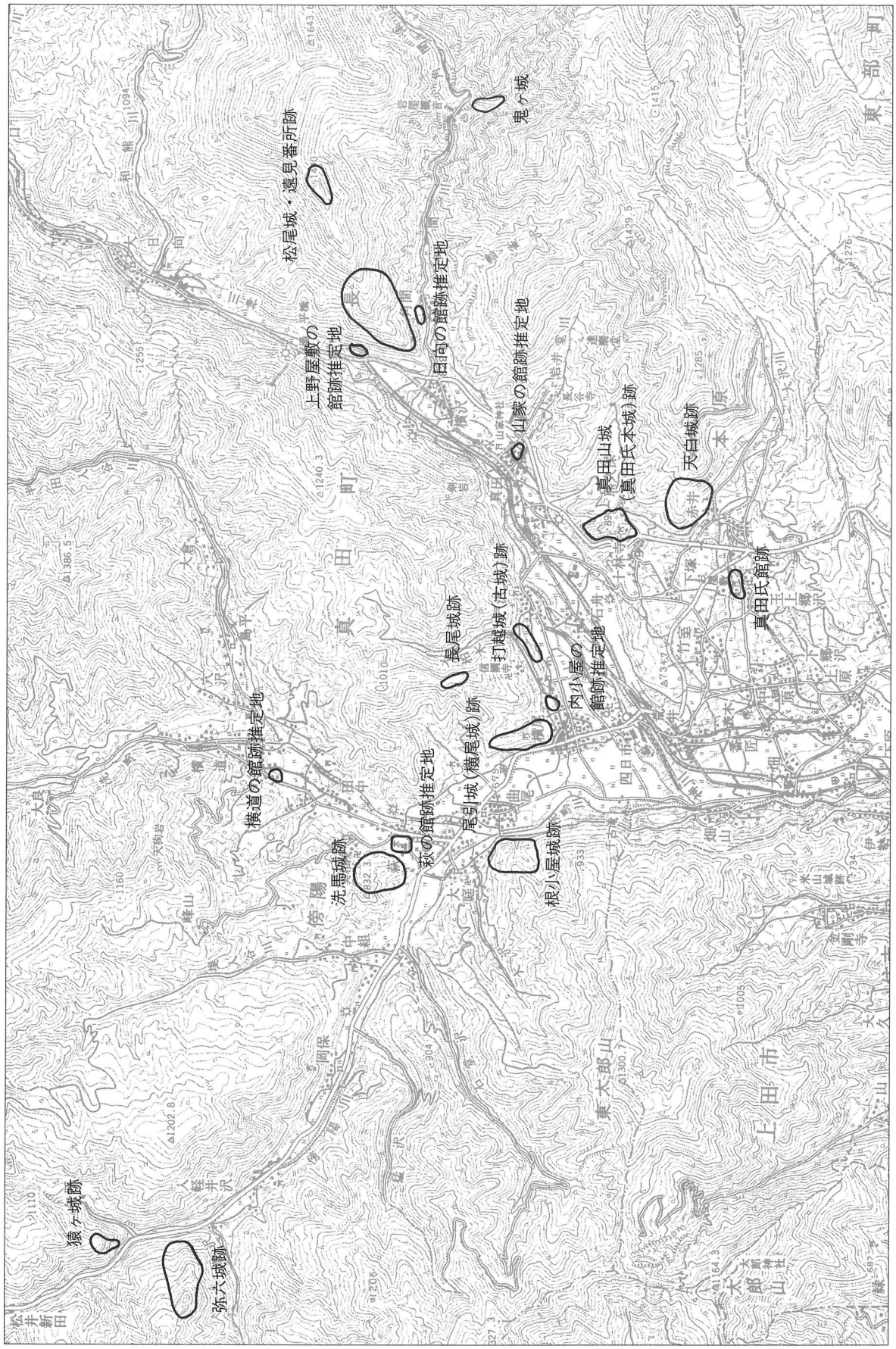


0 300m

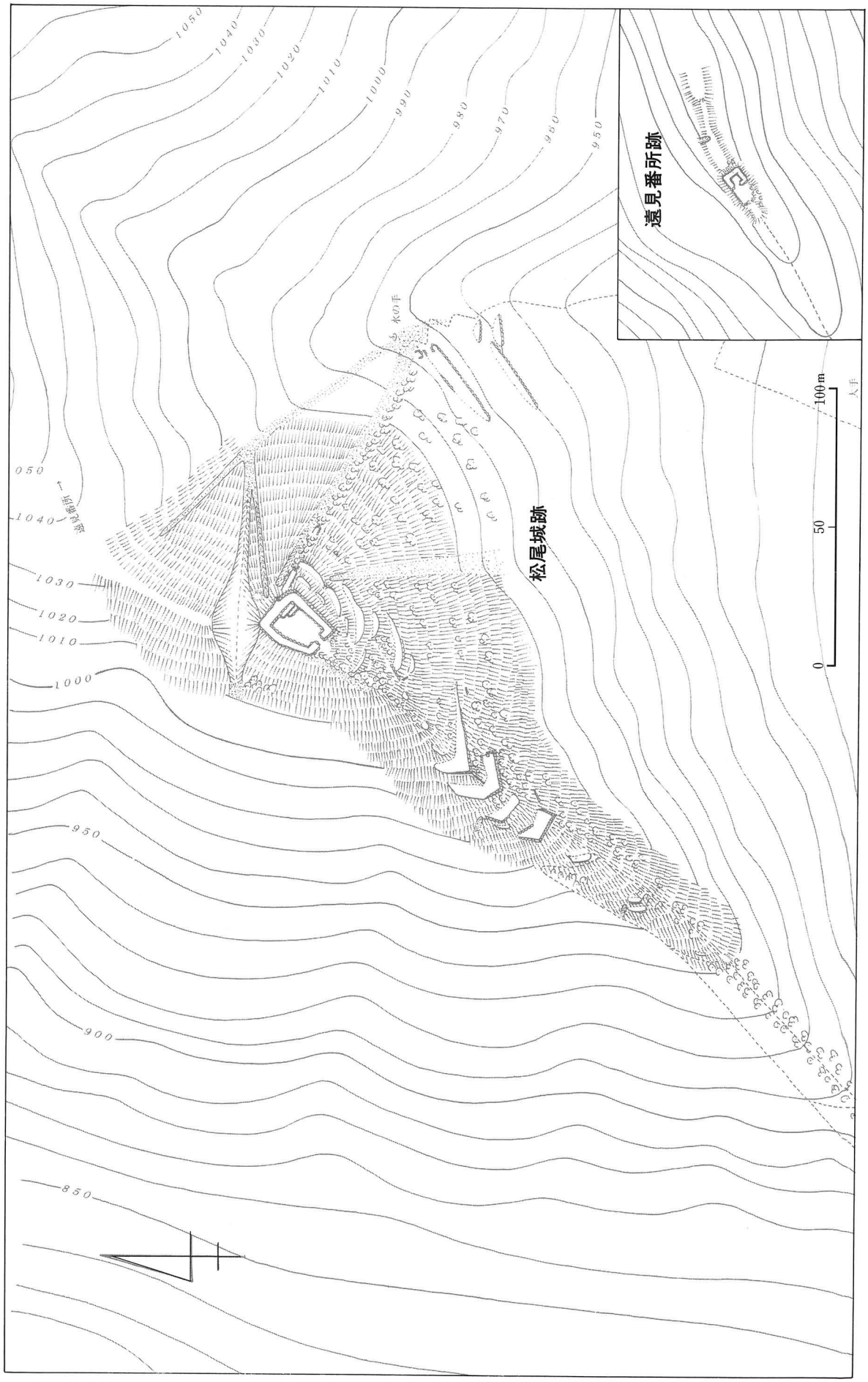
（本原）下原／南原

0　　300m

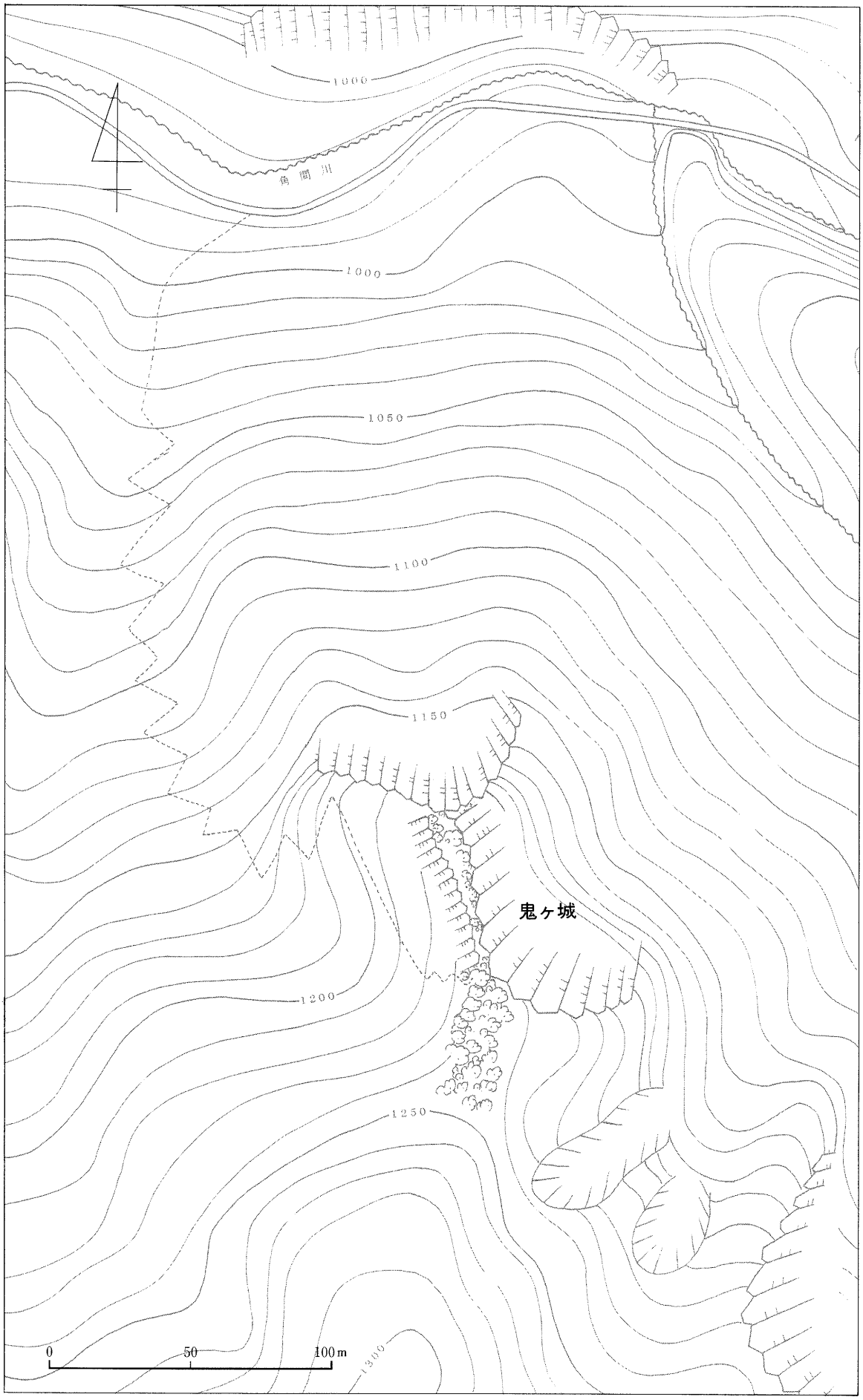
2　山城縄張図



第１図　真田町城館跡分布図

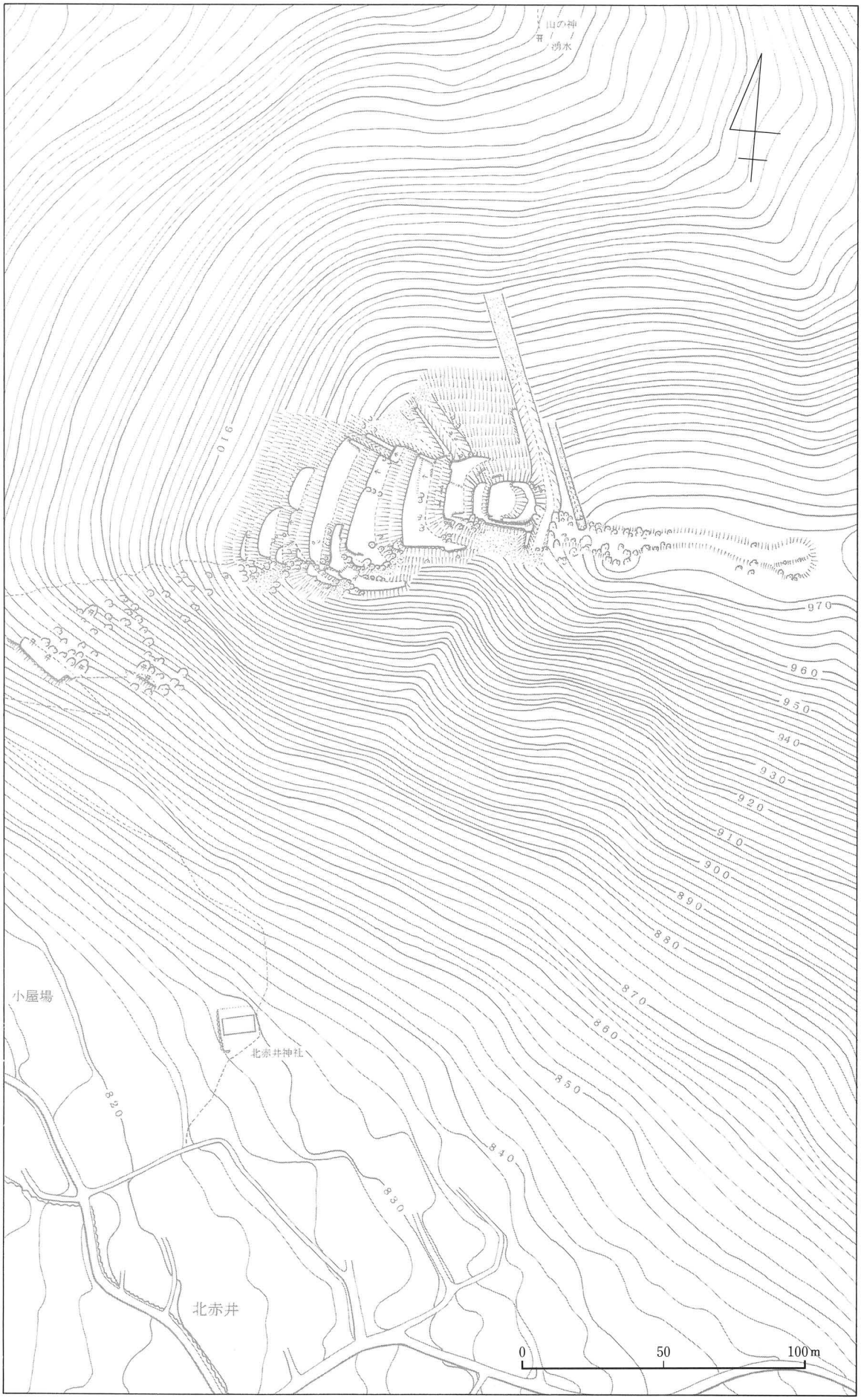


第２図　松尾城・遠見番所跡縄張図

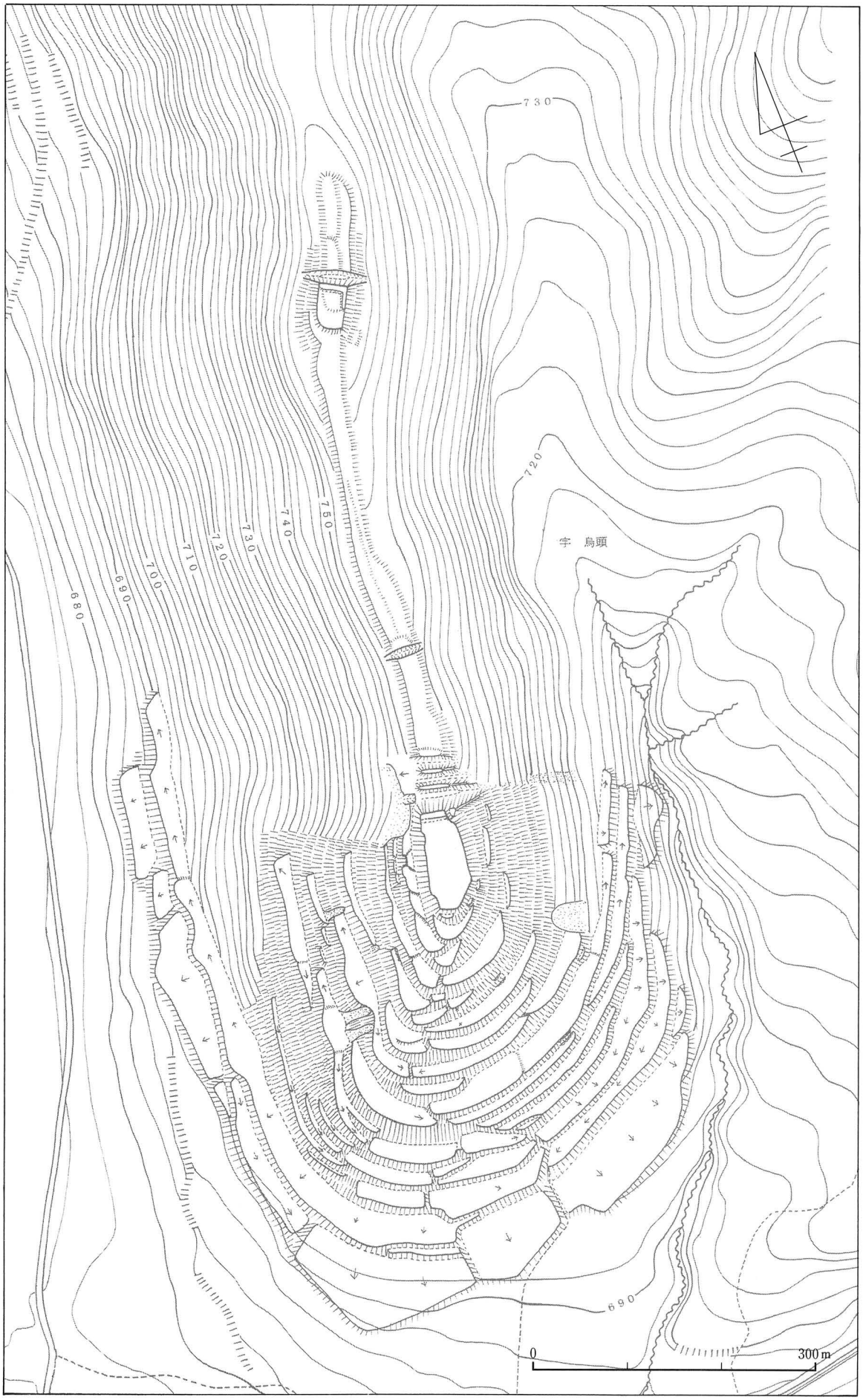


第3図　鬼ヶ城地形図

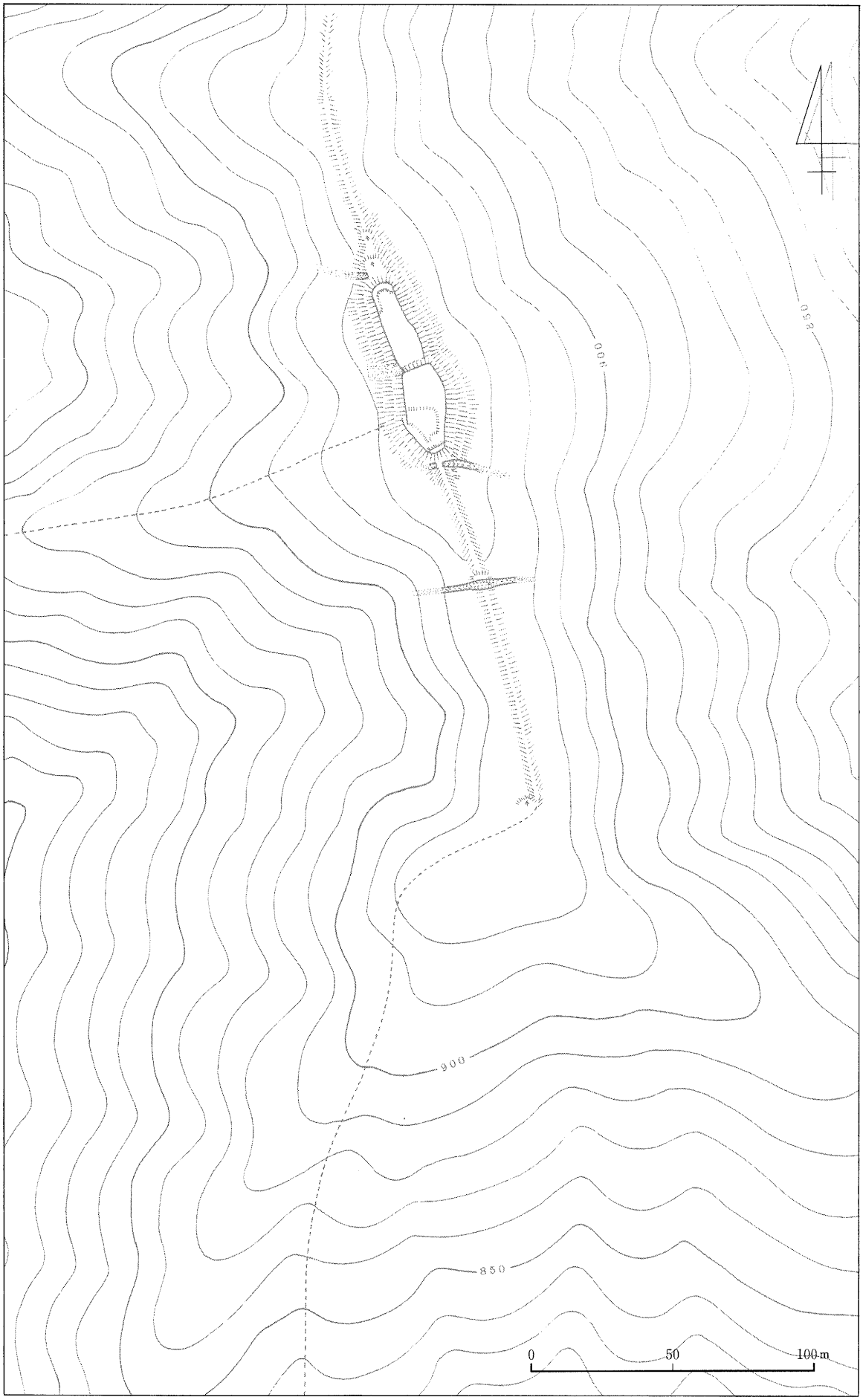
第 4 図　真田山城(真田氏本城)跡縄張図


山の神
井
湧水
910
970
960
950
940
930
920
910
900
890
880
870
860
850
840
830
820
小屋場
北赤井神社
北赤井
0
50
100m

第５図　天白城跡縄張図

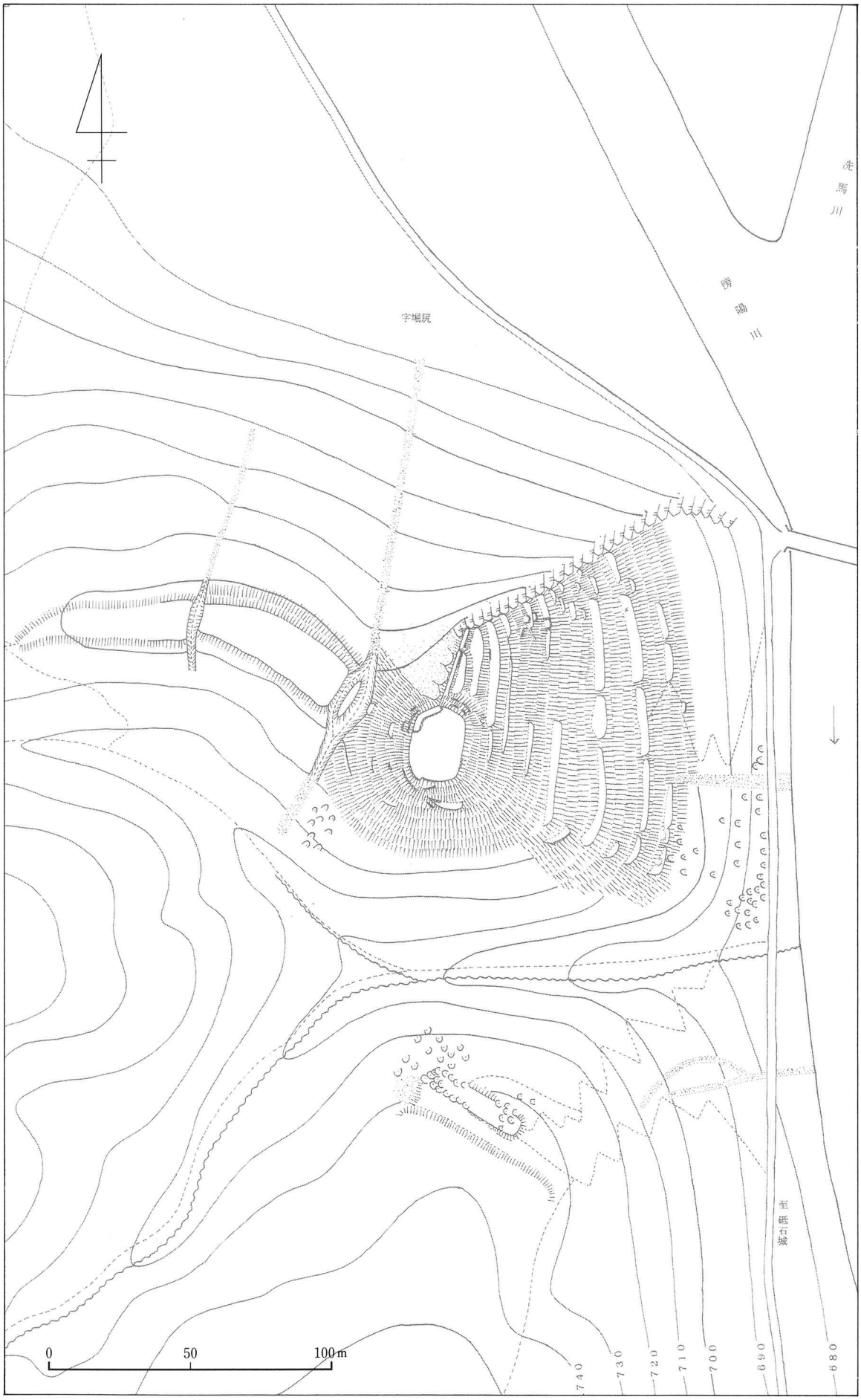


第６図　尾引城(横尾城)跡縄張図

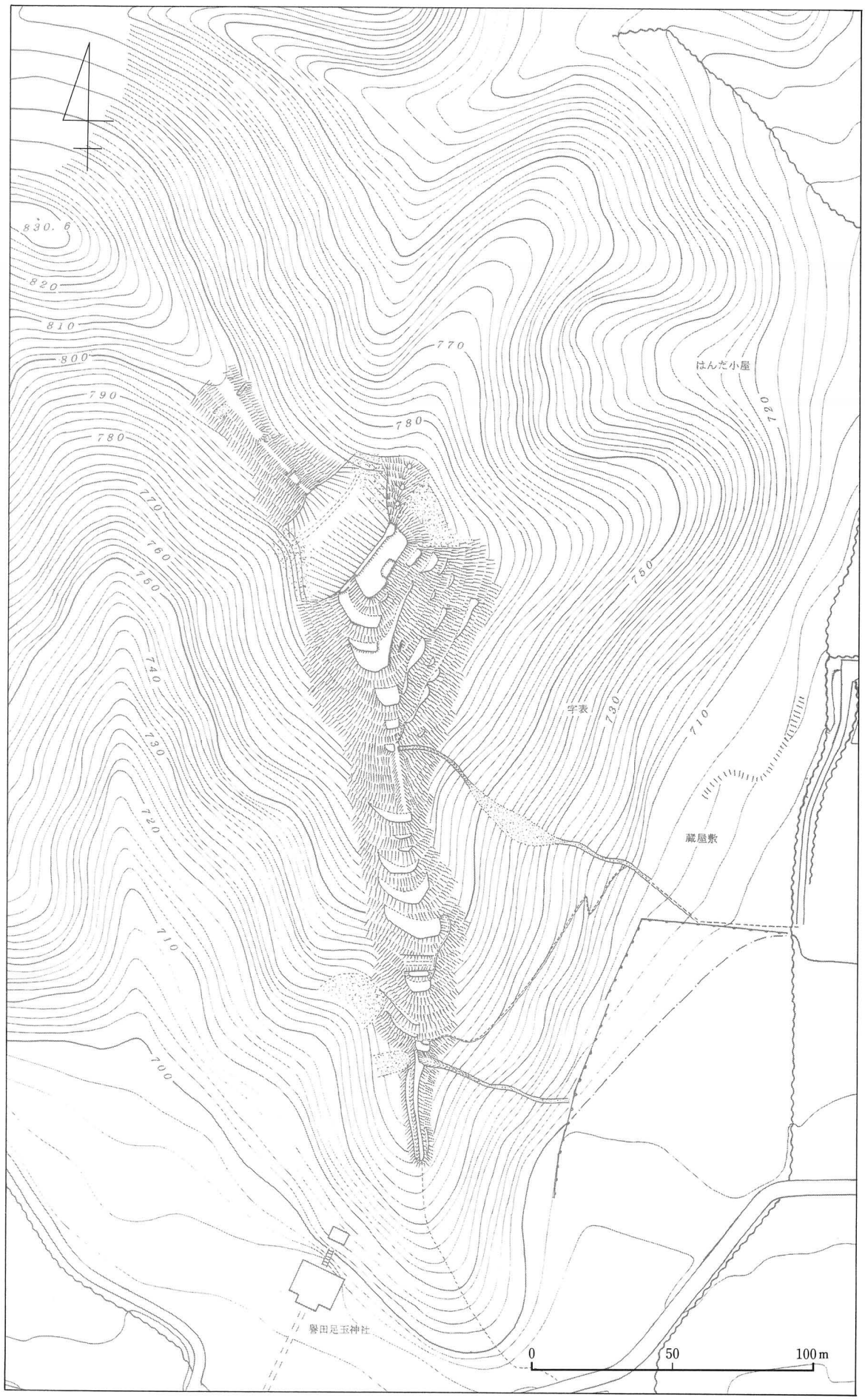


第７図　長尾城跡縄張図

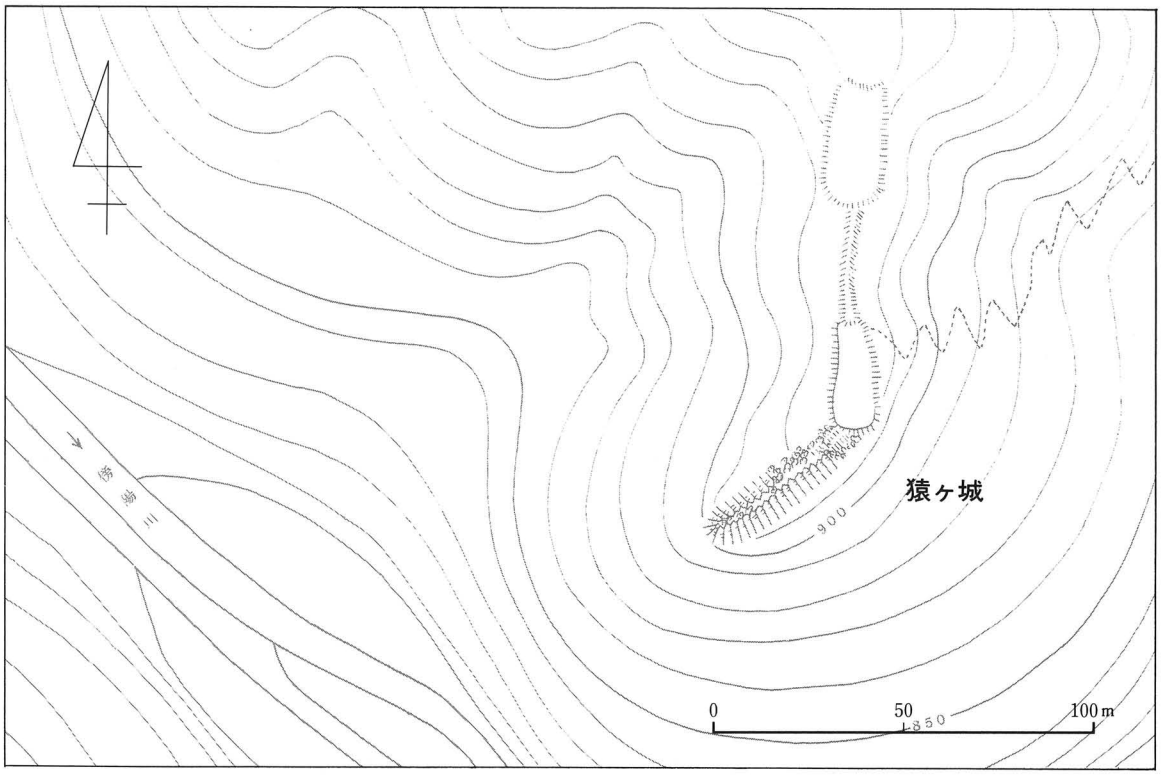
第８図　打越城(古城)跡縄張図



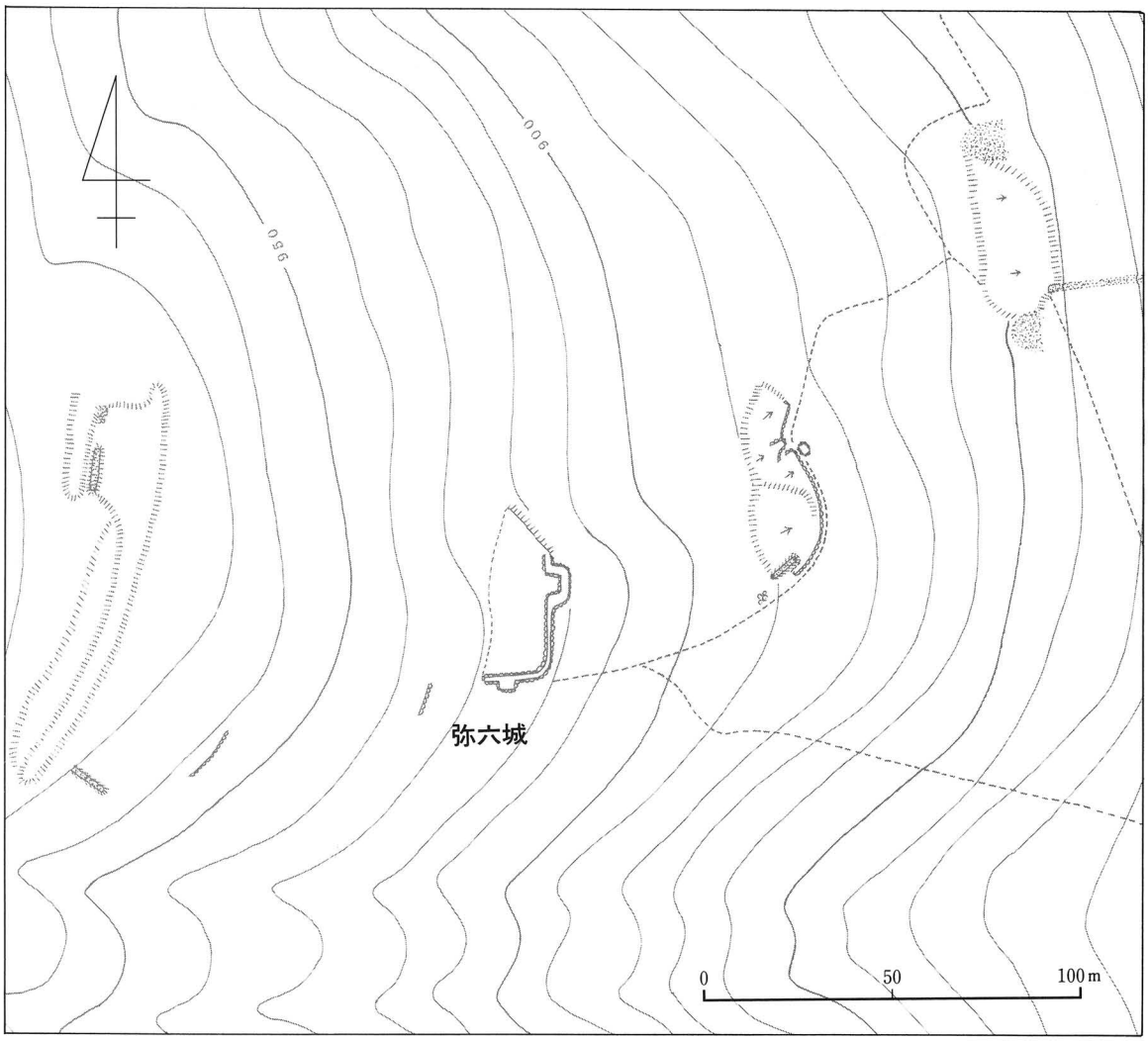
第９図　根小屋城跡縄張図



第10図　洗馬城跡縄張図



第11図　猿ヶ城跡縄張図



第12図　弥六城跡縄張図

3　遺跡一覧表

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　在　地	地図	地　目	時　代
1	8167	包蔵地	石戸山遺跡	長・菅平 西組 石戸山麓	1	畑	縄文・弥生
2	7068	洞窟遺跡	西組洞穴遺跡	長・菅平 西組 石戸山腹	1	山林	弥生
3	1317	包蔵地	西組Ａ遺跡	長・菅平 西組	1・2	畑	旧石器・縄文・弥生
4	1318	包蔵地	西組Ｂ遺跡	長・菅平 西組	1	畑	縄文・古墳
5	1315 1316 1319	包蔵地	西組Ｃ遺跡	長・菅平 西組	1	畑	縄文・古墳
6	8164	包蔵地	西組Ｄ遺跡	長・菅平 西組	1	畑	旧石器・縄文
7	8165	包蔵地	西組Ｅ遺跡	長・菅平 西組	1	畑	縄文
8	8166	包蔵地	西組Ｆ遺跡	長・菅平 西組	1	畑	縄文
9	8163	散布地	中組Ａ遺跡	長・菅平 中組	2	畑	縄文・弥生
10	－	集落址	山本畑遺跡	長・菅平 中組 菅平小中学校隣接地	2	畑	縄文・平安
11	8161	散布地	玉井山Ａ遺跡	長・菅平 中組	2	畑	縄文
12	8162	散布地	玉井山Ｂ遺跡	長・菅平 中組	2	畑	縄文
13	1312	包蔵地	菅平学校敷地遺跡	長・菅平 中組 菅平小中学校敷地内	2	学校地	旧石器・縄文
14	8160	散布地	矢追別荘裏遺跡	長・菅平 中組	2	畑	縄文
15	8159	散布地	小坂別荘裏遺跡	長・菅平 中組	2	宅地	縄文
16	1313	単独出土	大川端遺跡	長・菅平 中組		畑	
17	1314	散布地	山ノ神遺跡	長・菅平 中組	2	宅地・畑	旧石器・縄文
18	－	散布地	ジャンプ台下遺跡	長・菅平 東組	2	畑	縄文
19	－	散布地	屋敷畑遺跡	長・菅平 東組	5	畑	縄文
20	8114 8139	包蔵地	東組Ａ遺跡	長・菅平 東組	2・5	畑・宅地 ゴルフ場	縄文・弥生
21	1310 8134	包蔵地	東組Ｂ遺跡	長・菅平 東組	2・5	畑・宅地	旧石器・縄文・古墳
22	8135	包蔵地	東組Ｃ遺跡	長・菅平 東組	2	畑・ ゲレンデ	縄文・古墳
23	8136	包蔵地	東組Ｄ遺跡	長・菅平 東組	2・5	畑	縄文
24	8137	包蔵地	東組Ｅ遺跡	長・菅平 東組	2	畑	縄文
25	8138	包蔵地	東組Ｆ遺跡	長・菅平 東組	3	畑・宅地	縄文
26	1305	散布地	郡界遺跡	長・菅平 東組	2	宅地	縄文

※文献の番号は、86～87頁の「真田町の遺跡に関する主な文献」の番号と対応している。なお、文献は主要なものを掲げた。

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
縄草)削器、彫刻刀形石器、剝片、縄早)押型文、縄前)関山式、黒浜式、諸磯ｃ式、縄中)加曽利Ｅ式、石鏃、石槍、打製石斧、磨製石斧、磨石、石匙、砥石/弥後)土器、石包丁	一部破壊	石戸遺跡、石戸山Ａ、Ｂ遺跡を改称、統合した 重機による削平で、包含層を失った部分がある	1
弥後)土器	異状なし		2
旧)石刃/縄中)五領ヶ台・加曽利Ｅ式/弥)磨製片刃石斧	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	3
縄中)加曽利Ｅ式、特殊磨石/古)土師器	全壊	深耕により、包含層を失う	4
縄早)楕円押型文・山形押型文、縄前)黒浜式・諸磯式、縄中)加曽利Ｅ式、縄後)加曽利Ｂ式、石鏃、磨製石斧	一部破壊	県No.1315木戸沢遺跡及び1316酒井畑遺跡を含める　深耕により、包含層を失った部分がある	5
旧)石刃/縄中)加曽利Ｅ式	一部破壊	常田畑遺跡を含める 深耕により、包含層を失った部分がある	6
縄前)黒浜式/縄中)土器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	7
縄前)羽状縄文・爪形文	一部破壊	現在でも遺物が多く出土するという	8
縄中)勝坂式・加曽利Ｅ式、石鏃、打製石斧、磨石、磨製石斧、砥石/弥後)箱清水式、打製石包丁	全壊	建物建設により包含層を失う 昭和35年発掘調査(文献16)	9
平)住居址２、土師器、須恵器、灰釉陶器、土錘	一部破壊	昭和52年発掘調査(文献43,45,46)	10
縄文土器片、打製石斧	異状なし	遺物がごくわずか拾える	11
縄前)黒浜式	全壊	グラウンド、マレットゴルフ場となり、包含層を失う	12
旧)東山系石刃・握斧状石器・石核・剝片/縄前)諸磯ａ式、縄中)踊場式	全壊	昭和27年に校舎建設の際の大規模な削平で包含層を失う	13
縄草)有茎尖頭器、縄前)前半の土器、縄中)土器、打製石斧	異状なし	現在は耕作されていない	14
縄中)五領ヶ台式	全壊	建物建設により包含層を失う	15
打製石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	16
旧)ブレイド/縄早)楕円押型文・茅山式、縄中)加曽利Ｅ式	一部破壊	一部宅地となり、包含層を失う	17
縄後)加曽利Ｂ式	異状なし	現在では遺物はほとんど拾えない	18
縄草)局部磨製石斧、有茎尖頭器	一部破壊	建物建設により、破壊が危惧される	19
縄前)黒浜式/弥後)箱清水式、太型蛤刃石斧	一部破壊	県No.8139東組Ｇ遺跡を含める 一部がマレットゴルフ場となっている	20
旧)石刃/縄早)撚糸文/古)土師器	一部破壊	県No.1310東組裏山遺跡を含める 畑と砂利敷の駐車場となっている	21
縄早)楕円押型文、縄中)加曽利Ｅ式、石鏃、打製石斧、特殊磨石/古)土師器(和泉式)	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	22
縄早)山形押型文・楕円押型文・田戸下層式・子母口式、縄前)黒浜式、縄中)五領ヶ台式・加曽利Ｅ式	一部破壊	昭和26・37年発掘調査(文献13、16) 深耕により、包含層を失った部分がある	23
縄草)削器、縄早)山形押型文・楕円押型文、縄前)黒浜式、縄中)加曽利Ｅ式	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	24
縄中)加曽利Ｅ式	一部破壊	建物建設で、包含層を失った部分がある	25
縄早)押型文、縄前)関山式、諸磯ｃ式	全壊	グラウンド建設により、包含層を失う	26

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	地図	地　目	時　　代
27	1306	散布地	産子清水遺跡	長・菅平 東組	2	畑・グラウンド	縄文・弥生・平安
28	8140	包蔵地	白樺荘前遺跡	長・菅平 東組 白樺橋周辺	3	駐車場	縄文
29	1266	洞穴遺跡	唐沢第4洞穴遺跡	長・菅平 東組 白樺橋北側	3	山林	弥生
30	1311 8940	包蔵地	長寿園遺跡	長・菅平 東組 長寿橋北西	6	畑・宅地	縄文・弥生・古墳・平安
31	—	包蔵地	十二塚原遺跡	長・菅平 東組	5	畑・グラウンド	縄文
32	8147	包蔵地	唐沢A遺跡	長・菅平 東組	5	畑	縄文
33	8148	包蔵地	唐沢B遺跡	長・菅平 東組	5	畑・グラウンド	縄文
34	1309 8149	包蔵地	唐沢C遺跡	長・十ノ原	3	畑・宅地	縄文
35	8150	包蔵地	唐沢D遺跡	長・十ノ原	6	畑	縄文
36	8151	包蔵地	唐沢E遺跡	長・十ノ原	5・6	畑	縄文
37	8152	包蔵地	唐沢F遺跡	長・十ノ原 日体大研修所敷地内	5	学校地	
38	8141	包蔵地	旧試験場西口遺跡	長・十ノ原 文部省体育研究所東側	3	畑・道路	旧石器・縄文
39	8141	包蔵地	駐車場前遺跡	長・十ノ原 アスレチック公園跡地	3	公園	縄文
40	1301	単独出土	筑波大実験センター遺跡	長・十ノ原 実験センター敷地内	6	畑	縄文・弥生
41	8153	包蔵地	原谷地A遺跡	長・十ノ原	5	畑	旧石器・縄文
42	8154	包蔵地	原谷地B遺跡	長・十ノ原	6	畑	旧石器
43	—	散布地	原谷地C遺跡	長・十ノ原	6	畑	縄文
44	—	散布地	原谷地D遺跡	長・十ノ原	6	畑	縄文
45	1299	岩陰遺跡	唐沢岩陰遺跡	長・十ノ原 唐沢の滝左岸	5	山林	縄文・弥生・古墳
46	1297	洞穴遺跡	唐沢第2洞穴遺跡	長・菅平 唐沢の滝右岸	5	山林	縄文・弥生
47	1295	城館跡？ 散布地	三日城遺跡	長・菅平 向組	5	山林 畑	伝承地 旧石器・縄文
48	8155	包蔵地	稲荷神社遺跡	長・菅平 向組 大松ゲレンデ下	5	畑・境内	縄文
49	8156	包蔵地	小島沖遺跡	長・菅平 向組 自然館南東	5	畑・グラウンド	縄文
50	8167	包蔵地	向組A遺跡	長・菅平 向組 保育園南側	5	畑	縄文
51	8158	包蔵地	攻玉社遺跡	長・菅平 向組 旧攻玉社跡周辺	4	畑・宅地	縄文・弥生

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
縄中)加曽利E式、縄後)堀之内式、石錐/弥後)箱清水式/平)土師器	全壊	テニスコート、駐車場建設により、包含層を失う	27
縄中)加曽利E式、縄晩)氷式/弥後)箱清水式	全壊	駐車場建設により、包含層を失う	28
弥後)箱清水式	全壊	駐車場建設により破壊される	29
縄早)押型文・茅山式、縄中)五領ケ台・加曽利E式、剥片/弥中)栗林式、弥後)箱清水式/古後)土師器/平)土師器	異状なし	県No.8940長寿園B遺跡・長寿園C遺跡・長寿園D遺跡を含める 昭和49年発掘調査(文献47)	30
縄早)押型文	一部破壊	一部がグラウンドになり、包含層を失う	31
縄早)押型文・田戸下層式、石鏃、石錐、掻器、特殊磨石	異状なし	遺物はほとんど拾えない	32
縄草)土坑2、局部磨製石斧5・尖頭器5・削器4・掻器1・石刃1・打製石斧6・砥石2・剥片11・礫1	全壊	深耕により、また、一部がグラウンドになり、包含層を失う　昭和43年発掘調査(文献25,28,73)	33
縄早)押型文、縄前)諸磯a・c式、縄後)加曽利B式、石鏃、打製・磨製石斧、石剣、石槍、石皿	一部破壊	県No.1309北信牧場事務所南遺跡及び北信牧場北西の小坂遺跡を含める　建物建設により、包含層を失う	34
縄草)石刃、彫刻器、スクレイパー、有舌尖頭器 縄早)山形押型文・田戸下層式、縄前)黒浜式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石皿、特殊磨石	一部破壊	一部がグラウンドとなり、包含層を失う	35
縄中)加曽利E式	異状なし	遺物はほとんど拾えない	36
縄早)山形押型文・楕円押型文・田戸下層式、縄前)繊維土器、石匙、石錐、特殊磨石	一部破壊	フロンティア牧場遺跡を改称 畜舎建設等で包含層を失う	37
旧)削器、剥片/縄早)押型文・田戸下層式、特殊磨石	異状なし	遺物はほとんど拾えない	38
縄早)押型文土器、縄中)加曽利E式	一部破壊	アスレチック公園建設の際に包含層を失う	39
縄早)押型文、縄中)五領ヶ台・加曽利E式/弥)条痕文系土器	異状なし	県No.1301生物実験センター裏遺跡を改称	40
旧)石刃/縄早)押型文・田戸下層式、縄前)黒浜式・諸磯b式、縄中)加曽利E式、特殊磨石、石鏃、石匙	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	41
旧)石刃、尖頭器、クサビ形石器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	42
縄文土器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	43
縄文土器、特殊磨石	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	44
縄早)押型文・撚糸文・子母口式・田戸下層式、縄前)神ノ木式、縄晩)大洞B式・大洞BC式、大洞C2式・佐野式・安行Ⅲ式、氷式、石鏃、磨製石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、磨石、礫器、骨角器/弥中)栗林式、弥後)箱清水式、石鏃/古)土師器	発掘調査	昭和38年発掘調査(文献23,48) 長野県史跡	45
縄中)勝坂式/弥後)箱清水式	異状なし	第三滝傍岩窟(第三の滝右側岩窟)遺跡を含める	46
旧)ナイフ形石器、削器/縄早)押型文、石鏃、異形部分磨製石器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある(文献32)	47
縄早)押型文・田戸下層式、特殊磨石、縄中)土器	一部破壊	リフト建設により、包含層を失う	48
縄草)局部磨製石斧、尖頭器、有茎尖頭器、削器、石刃、打製石斧、(土器片?)	一部破壊	一部がグラウンドとなり、包含層を失う(文献35)	49
縄草)有茎尖頭器、剥片	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	50
縄早)沈線文 縄前)諸磯a式 弥後)箱清水式	異状なし	畑は現在耕作されていない	51

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　在　地	地図	地　目	時　代
52	1299	単独出土	善光寺窪遺跡	長・菅平 向組		畑	縄文
53	1298	散布地	秋葉神社遺跡	長・菅平 向組 秋葉神社周辺	1	畑	縄文
54	1300	散布地	つばくろ下遺跡	長・菅平 向組 つばくろゲレンデ	4	畑・ゲレンデ	縄文・弥生
55	—	散布地	大松山遺跡	長・菅平 向組 大松山山腹	5	畑・ゲレンデ	縄文
56	8143	散布地	三本松A遺跡	長・十ノ原	3		縄文
57	8144	散布地	三本松B遺跡	長・十ノ原	3		縄文
58	1303	散布地	スモン原遺跡	長・十ノ原 別荘地	3	畑	縄文・弥生
59	8145	散布地	ウズラ沢A遺跡	長・十ノ原 別荘地	3	山林	古墳
60	8146	散布地	ウズラ沢B遺跡	長・十ノ原 別荘地	3	山林	縄文・古墳
61	1292	岩陰遺跡	陣ノ岩岩陰遺跡	長・十ノ原 陣ノ岩下	3	山林	縄文・弥生・古墳
62	1290	岩陰遺跡	前熊久保岩陰遺跡	長・十ノ原 前熊久保	3	山林	縄文・弥生
63	1302	単独出土	北信牧場境の不動道遺跡	長・十ノ原		山林	縄文
64	—	散布地	第二牧場遺跡	長・十ノ原 現菅平牧場内	3	牧場	縄文
65	—	散布地	北信牧場北西の上原遺跡	長・十ノ原		山林	
66	—	散布地	大明神沢遺跡	長・十ノ原 大明神沢	3	山林	縄文・弥生
67	1304	洞窟遺跡	大明神洞窟遺跡	長・十ノ原 大明神沢	3	山林	縄文・平安
68	1308	散布地	ダボス下遺跡	長・十ノ原 ゴルフ場南側	3	畑	縄文・平安
69	—	散布地	奥ダボス遺跡	長・十ノ原 裏ダボスゲレンデ	3	畑	縄文
70	—	散布地	富沢畑遺跡	長・十ノ原	5	畑	縄文
71	1289	単独出土	田中別荘内遺跡	長・十ノ原		宅地	縄文
72	1307	散布地	たな池遺跡				
73	1293	散布地	いたごや遺跡	長・十ノ原 ダム北側	8	畑	縄文
74	1294	散布地	大洞A遺跡	長・菅平 大洞	7	畑	縄文
75		単独出土	大洞B遺跡	長・菅平 大洞 射撃場西側	7	畑	縄文
76	—	単独出土	四阿山中腹遺跡	長・十ノ原 四阿山中腹		山林	縄文
77	—	信仰遺跡	四阿山岳仰遺跡	長・十ノ原 四阿山頂	3	山林	中世・近世
78	1291	散布地	のぼろ遺跡	長・十ノ原 菅平口 旧養豚場付近	8	畑	縄文
79	1288	散布地	しょてばら遺跡	長・十ノ原 菅平口 橋北側	8	畑	古墳
80	—	包蔵地	土合遺跡	長・十ノ原 渋沢	8	畑	縄文
81	1287	散布地	下渋沢遺跡	長・十ノ原 渋沢	8	畑	縄文

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
縄前)諸磯ｂ式？		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	52
縄中)加曽利Ｅ式	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	53
縄)石鏃 弥)磨製石鏃	一部破壊	県No.1300向組燕畑遺跡を改称 現在でも遺物が出土する	54
縄草)尖頭器 縄早)押型文、特殊磨石、縄前)中葉の土器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	55
縄)土器	異状なし		56
縄中)梨久保式、打製石斧、磨石	異状なし		57
縄早)子母口式、縄前)土器、縄中)加曽利E式、石匙/弥後)箱清水式	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	58
古)国分式/平)土師器	一部破壊	別荘建設により一部破壊	59
縄早)押型文、縄中)加曽利Ｅ式/古)国分式/平)土師器	異状なし	湧水付近に遺物が散布(文献39)	60
縄早)山形押型文・楕円押型文、縄前)関山式・黒浜式・諸磯ｂ式/縄中)加曽利Ｅ式/縄後)堀之内式、石鏃弥中)初頭型式、弥後)箱清水式、銅釧、石鏃/古)土師器	発掘調査	昭和41年発掘調査(文献19,24,27,33)	61
縄早)山形押型文、縄前)上原式、諸磯ｃ、縄中)初頭形式・加曽利Ｅ式、石鏃、特殊磨石/弥後)箱清水式	異状なし		62
縄)石匙		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	63
縄前)下島式、縄中)加曽利Ｅ式、石鏃	異状なし	長者清水遺跡とも呼ばれた	64
		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	65
縄後)土器、石鏃/弥後)箱清水式	異状なし		66
縄)土器/平)土師器、獣骨	全壊	吹通し洞穴遺跡とも呼ばれた、崩落により全壊	67
縄前)諸磯ａ式・諸磯ｃ式、縄中)加曽利Ｅ式、石鏃、打製石斧、石皿、磨製石斧、石剣/平)土師器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	68
縄)土器	一部破壊	リフト建設により、一部破壊	69
縄早)押型文、特殊磨石、縄中)土器	一部破壊	深耕により、包含層を失った部分がある	70
縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	71
縄後)加曽利Ｂ式		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	72
縄前)南大原式	異状なし		73
縄前)下島式、石匙、石鏃	異状なし	現在でもわずかに遺物が出土するという	74
縄)石鏃	異状なし		75
縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	76
陶器類、鉄製品(剣・刀子・鎌・薙鎌・釘)、青銅品(御正躰)、古銭(中近世)	異状なし	山頂附近に遺物がみられる(文献76)	77
縄早)楕円押型文・山形押型文、縄前)含繊維土器、縄中)加曽利Ｅ式、縄後)堀之内式、打製石斧、磨製石斧、石皿	異状なし	耕作のため土器片は小片となっているが、拾える　現在では耕作していない畑が多い	78
縄早)押型文/古)土師器	異状なし	わずかに遺物が出土する	79
縄草)尖頭器、土器	異状なし	現在でもわずかに遺物が出土するという	80
縄中)五領ケ台式	異状なし	現在では耕作していない	81

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	地図	地　目	時　　代
82	1286	散布地	たかや遺跡	長・渋沢 高屋沢	13	畑	縄文・弥生
83		単独出土	鳥居峠遺跡	長・渋沢			縄文
84	—	散布地	和熊A遺跡	長・大日向 和熊	12	畑	縄文
85	—	散布地	和熊B遺跡	長・大日向 和熊	12	畑	縄文
86	1285	岩陰遺跡	岩屋観音岩陰遺跡	長・角間 岩谷	23	山林	縄文
87	—	洞窟遺跡	モロウド洞窟遺跡	長・角間 山ノ神(モロウド)	23	山林	平安
88	—	包蔵地	芳ノ平遺跡	長・角間 芳ノ平	23	畑	縄文
89	—	単独出土	大明神遺跡	長・角間 角間	23	畑	弥生
90	—	散布地	角間遺跡	長・角間 角間	23	畑	平安
91	—	散布地	日向A遺跡	長・角間 日向	23	畑	縄文
92	—	散布地	日向B遺跡	長・角間 日向	23	畑	縄文
93	—	墓址	日向畑遺跡	長・角間 日向 角間区民広場	23	公園	中世
94	—	城館跡	日向の館跡推定地	長・角間 日向 角間区民広場	23	公園	中世
95	— 1283	城館跡 単独出土	松尾城・遠見番所跡	長・角間 日向	22・23	山林	中世～
96	—	城館跡	上野屋敷の館跡推定地	長・角間 上野屋敷	22	畑	中近世？
97	—	単独出土	米原遺跡	長・角間 米原	23	畑	縄文
98	—	散布地	橋場遺跡	長・角間 橋場	22	畑	縄文
99	1282	包蔵地	善慶遺跡	長・横沢 善慶	22	畑	縄文・平安
100	—	包蔵地	上法性寺遺跡	長・横沢 上法性寺	22	畑	縄文・中世
101	—	城館跡	山家の館跡推定地	長・真田 山家	22・25	畑・宅地	中世
102	—	埋蔵銭	山家の館跡推定地出土銭	長・真田 山家	25	畑	中世
103	—	包蔵地	真田遺跡	長・真田 真田	22	畑	縄文
104	—	包蔵地	長小学校遺跡	長・真田 甲石 長小学校付近	25	畑	縄文
105	1280	包蔵地	甲石遺跡	長・真田 甲石			縄文・弥生・平安
106	1281	包蔵地	長谷寺下遺跡	長・真田 旗見原	25	畑	縄文・平安
107	—	城館跡	真田山城(真田氏本城)跡	長・十林寺	25	畑・山林	中世～
108	—	単独出土	熊久保遺跡	長・十林寺 熊久保		山林	縄文
109	1287	包蔵地	柳又遺跡	長・戸沢 柳又	24	田	縄文
110	1279	包蔵地	松葉田遺跡	長・戸沢 松葉田	24	田	縄文
111	1276	集落址	石舟遺跡	長・石舟	24	畑・宅地	縄文・平安
112	1275	集落址	雁石遺跡	長・石舟 雁石	24	畑・宅地	縄文・弥生
	—	石棒	雁石の石棒群	長・石舟 雁石	24	畑	

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
縄早)押型文/弥後)樽系土器	異状なし	弥生土器出土地点以外にも、2、3ヵ所の開墾地で縄文土器の破片が出土したという	82
縄)打製石斧		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	83
縄)土器	異状なし	現在では耕作していない	84
縄)土器	異状なし	現在では遺物はほとんど見られない	85
縄後)堀之内式、打製石斧	異状なし	現在では遺物はほとんど見られない	86
平)土師器	異状なし		87
縄)土器	異状なし	わずかに遺物が出土する	88
弥)太型蛤刃石斧	異状なし	わずかに遺物が出土する	89
平)土師器	一部破壊	住宅建設により包含層を失う	90
縄)土器	異状なし		91
縄)土器	異状なし		92
中)宝篋印塔、五輪塔、配石遺構、鉄鎌、刀子、古銭、かわらけ、内耳土器、石臼	発掘調査	昭和46年発掘調査(文献36,37,38)、町指定史跡	93
	全壊	丸子町高梨家文書(※1)	94
段郭、石垣、堀切	異状なし	町指定史跡	95
縄)独鈷石		県No.1283松尾城附近遺跡 山家神社所蔵独鈷石出土地	
陶器、かわらけ	一部破壊	鉄塔建設により一部破壊	96
石鏃、磨製石斧	異状なし		97
縄)土器	異状なし		98
縄中)加曽利E式/平)土師器	全壊	工場団地造成により全壊	99
縄中)加曽利E式/平)土師器/五輪塔	一部破壊	住宅建設により包含層を失う	100
桝形、水利、馬入、矢竹、井戸	一部破壊	ほとんどが宅地となっている	101
現存1,804枚(最新銭　永楽通寶)	全壊	(文献69,75)	102
縄)土器、石匙	全壊	水田や宅地となり、包含層を失う	103
縄中)加曽利E式、打製石斧、石匙/平)土師器	全壊	学校や宅地となり、包含層を失う	104
縄後)堀之内式/弥)偏平片刃石斧/平)土師器		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	105
縄)土器/平)土師器	異状なし		106
土塁、段郭、水利、堀切、石垣、(矢竹)	一部破壊	畑を造る際に地形を改変した部分が見られる(文献74)	107
縄)打製石斧、磨製石斧		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	108
縄中)加曽利E式、縄後)加曽利B式・堀ノ内式	一部破壊	戸沢区集落内にあり、一部が宅地となった	109
縄中)加曽利E式	全壊	一帯が水田となり、全壊	110
縄前)南大原式・上原式・北白川下層II式、縄中)加曽利E式、縄後)堀之内式、打製石斧/平)土師器	一部破壊		111
縄中)加曽利E式、縄後)堀之内式・加曽利B式、縄晩)佐野I式・佐野II式・大洞B式・大洞C1式・大洞C2式・安行IIIa式・安行IIIb式・氷式、土偶、石棒、土製耳飾、ミニチュア土器、土製円盤、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石錐、石匙/弥後)箱清水式	発掘調査	昭和49年発掘調査(文献41,42)	112
石棒3点	異状なし		

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	地図	地　目	時　　代
113	—	墓址	伝・河原氏墓所	長・石舟	25	畑	中世～近世
114	1274	散布地	山遠家遺跡	長・石舟 山遠家	24	畑	縄文・弥生
115	1271 1272	集落址	四日市遺跡	長・四日市／横尾 蓮台	24	畑	縄文・弥生・古墳・平安
116	—	城館跡	尾引城(横尾城)跡	長・横尾 城	20・24	山林	中世～
117	—	城館跡	内小屋の館跡推定地	長・横尾 内小屋	24	畑	中世
118	—	城館跡	打越城(古城)跡	長・横尾 山口	24	山林	中世～
119	—	城館跡	長尾城跡	長・横尾 烏頭沢	20	山林	中世～
120	—	埋蔵銭	役場敷地出土銭	長・横尾 蓮台	24	公共施設	中世
121	—	洞窟遺跡	鳴尾洞窟遺跡	傍陽・鳴尾	10	山林	
122	—	包蔵地	新地蔵峠遺跡	傍陽・沼入	10	山林	旧石器
123	—	散布地	軽井沢遺跡	傍陽・入軽井沢			
124	—	散布地	旁部遺跡	傍陽・旁部		山林	縄文
125	—	城館跡	猿ケ城跡	傍陽・松井新田 矢坪	10	山林	中世～
126	—	散布地	矢坪遺跡	傍陽・松井新田 矢坪	10	山林	縄文
127	—	城館跡	弥六城跡	傍陽・入軽井沢 軽井沢入	10	山林	中世～
128	—	散布地	城山遺跡	傍陽・入軽井沢 軽井沢入	10	山林	縄文
129	—	散布地	唐沢遺跡	傍陽・入軽井沢 唐沢		山林	中世
130	—	包蔵地	和平遺跡	傍陽・入軽井沢 和平	14	畑	縄文
131	—	散布地	前ノ田遺跡	傍陽・入軽井沢 前ノ田	14	畑	縄文
132	—	散布地	樋ノ口遺跡	傍陽・入軽井沢 樋ノ口	14	畑	平安・中世
133	—	散布地	猛沢遺跡	傍陽・岡保 猛沢		山林	縄文
134	—	包蔵地	赤石Ａ遺跡	傍陽・上横道 赤石	11	畑	縄文
135	—	包蔵地	赤石Ｂ遺跡	傍陽・上横道 赤石	11	畑	旧石器・縄文
136	—	包蔵地	小硲遺跡	傍陽・上横道 小路	16	畑	縄文
137	—	散布地	上平遺跡	傍陽・中横道 上平／穴沢	16	畑	縄文・平安
138	1326	包蔵地	日影遺跡	傍陽・中横道 日影	16	畑	縄文
139	—	城館跡	横道の館跡推定地	傍陽・中横道 上沖	16	宅地	中世～
140	1325	散布地	上沖遺跡	傍陽・中横道 上沖		畑	縄文
141	1327	散布地	弾正遺跡	傍陽・穴沢 弾上			縄文
142	1321	散布地	峰山Ａ遺跡	傍陽・峰山	15	畑	縄文

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
五輪塔群	異状なし	五輪塔に銘あり(※2)	113
縄中)加曽利E式、打製石斧/弥後)箱清水式	一部破壊		114
住居址(縄前、縄中、古後、平)、土坑、 小鍛冶遺構 縄早)絡条体圧痕文、縄前)羽状縄文系・花積下層式・ 関山Ⅰ式・神ノ木式・有尾式・諸磯a式・北白川下層Ⅱ式、 縄中)加曽利E式、唐草文系、圧痕隆帯文系、曽利系、 縄後)磨消縄文、縄晩)氷式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、 石皿、石錐、石匙、砥石、軽石製品、土偶、玦状耳飾等/ 弥後)箱清水式/古後)鬼高式、鉄製品(刀子)/平)土師器、 須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品(刀子・紡錘車・鎌等)、 鞴片、転用硯、墨書土器、獣骨/中近世)古銭、懐中仏	発掘調査	平成元・5～7年発掘調査 (文献62,67,68,71,77) 県No.1272蓮台遺跡を含める	115
段郭、堀切、土塁、石垣、石臼、(矢竹)	一部破壊	登山道整備の際に段郭を破壊、主郭が一部崩壊 町指定史跡	116
中)かわらけ、陶器、五輪塔、宝篋印塔残欠	一部破壊	遺物が多く出土する 内小屋城跡を改称、町指定史跡	117
段郭	一部破壊		118
郭、堀切、土塁	異状なし	上田市・青木家文書(※3)	119
現存277枚(最新銭　至大通寶)	全壊		120
	異状なし		121
旧)掻器、剝片、搬入礫	一部破壊	一部、主要地方道長野真田線の道路敷となる	122
		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	123
縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布地図)	124
削平地	異状なし		125
縄)土器	異状なし	猿ケ城遺跡を改称	126
削平地、石塁、石垣	異状なし		127
縄)土器、石鏃	異状なし		128
中)陶器		遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布地図)	129
縄早)異形部分磨製石器、黒曜石片、打製石斧	異状なし	(文献77)	130
縄)土器	異状なし		131
平)土師器/中)陶器	異状なし		132
縄)土器		遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布地図)	133
縄)土器	異状なし		134
旧)槍先型尖頭器、先刃掻器/縄)土器	異状なし		135
縄)土器	異状なし		136
縄)土器/平)土師器、須恵器	異状なし		137
縄)石鏃	異状なし		138
五輪塔群、井戸、地名(堀の内)、(矢竹)	一部破壊	(文献54)	139
縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	140
縄草)尖頭器、縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	141
縄中)踊場式、五領ケ台式	一部破壊		142

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	地図	地　目	時　　代
143	1323	散布地	峰山Ｂ遺跡	傍陽・峰山	15	畑	縄文
144	1322	包蔵地	中村遺跡	傍陽・萩 中村 ＪＡ傍陽支所敷地	19	宅地	縄文
145	－	包蔵地	早稲田遺跡	傍陽・萩 早稲田	19	宅地	縄文
146	－	城館跡	洗馬城跡	傍陽・萩 表 ・大庭 宮ノ前	19	山林	中世～
147	－	城館跡	萩の館跡推定地	傍陽・萩 表 傍陽小学校校地	19	学校地	中世～
148	1324	包蔵地	宮ノ前遺跡	傍陽・大庭 宮ノ前 誉田足玉神社前	19	畑	縄文
149	1328	散布地	東太郎山遺跡	傍陽・大庭 東太郎山腹		山林	縄文
150	－	墓址	耕雲寺出土石塔群	傍陽・大庭 耕雲寺裏山	19	境内	中世
151	－	経塚	伝・大庭の経塚	傍陽・大庭 堀尻	19	畑	近世
152	－	城館跡	根小屋城跡	傍陽・若宮	19・21	山林	中世～
153	－	包蔵地	宮原遺跡	傍陽・曲尾 宮原 宮原神社周辺	20	畑	縄文・平安
154	－	古墳	的山遺跡	本原・西畝4,400-5	25	畑	縄文・古墳
155	1269	古墳	西畝古墳	本原・西畝			古墳
156	1270	古墳群	下塚古墳群１号墳	本原・下塚4,327-2	25	畑	古墳
	1036		下塚古墳群２号墳	本原・下塚4,286	25	畑	古墳
157	7071	散布地	北赤井遺跡	本原・赤井 北赤井	27		縄文
158	7070	包蔵地	花水遺跡	本原・赤井 花水	27	畑	縄文
159	－	散布地	赤井上平遺跡	本原・赤井	27		縄文・弥生
160	7086	散布地	赤井開墾地遺跡	本原・赤井		畑	縄文・古墳
161	－	城館跡	天白城跡	本原・赤井 北赤井	25・27	山林	中世～
162	1267	古墳	荒井古墳	本原・荒井		畑	古墳
163	－	包蔵地	南荒井遺跡	本原・荒井 南荒井	26	畑	平安
164		古墳	北臼庭古墳	本原・荒井 北臼庭878-1	26	畑	古墳
165	1265	包蔵地	北臼庭遺跡	本原・荒井 北臼庭	26	畑	縄文
166	7076	包蔵地	表木遺跡	本原・表木 共同作業所南側	26	畑	縄文
167	－	古墳	表木古墳	本原・表木(藤沢)1,221-1	26	水田	古墳
168	1261	古墳	北番匠古墳	本原・北番匠465-1	26	畑	古墳
169	－	包蔵地	南番匠Ａ遺跡	本原・南番匠	26	畑	平安
170	－	包蔵地	南番匠Ｂ遺跡	本原・南番匠	26	畑	古墳
171	－	包蔵地	南番匠Ｃ遺跡	本原・南番匠	26	畑	縄文・古墳・平安
172	－	包蔵地	南番匠Ｄ遺跡	本原・南番匠	26	畑	縄文・平安
173	7075	集落址	藤沢遺跡	本原・大畑 藤沢	26	畑	古墳・平安

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
縄中)石鏃、磨製石斧	一部破壊		143
縄中)勝坂式、加曽利E式、縄後)堀之内式、加曽利B式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石皿、石錐、砥石、石棒、独鈷石	全壊	商店、住宅建設により包含層を失う 伝・実相院所蔵独鈷石出土地	144
	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される	145
段郭、堀切、土塁、石垣	一部破壊	町指定史跡	146
用水、地名(堀の内、久根花、くら屋敷)	一部破壊	(文献54)	147
縄)石鏃、磨製石斧/平)土師器、須恵器	一部破壊	遺物はわずかに拾えるのみ	148
縄)石鏃		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	149
中)五輪塔、宝篋印塔(文亀4年銘)	一部破壊	出土地点は土砂災害により破壊されたが、石塔は寺境内にあり、保管状況は良好	150
盛土、五輪塔形板碑	異状なし	経塚の伝承あるも、出土遺物は知られていない	151
段郭、堀切、石垣、石臼	一部破壊	段郭が畑として利用された部分がある	152
縄)土器/平)土師器、須恵器	異状なし	廃寺伝承あり	153
縄早)特殊磨石/古)勾玉1	異状なし	古墳とは考えにくいため、従来の「的山古墳」を改称	154
古)円墳、横穴式石室、直刀、鉄鏃、人骨の出土を伝える		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	155
古)円墳	一部破壊	墳丘周囲に石垣が作られ、石塔が載せられている	156
古)円墳	ほぼ全壊	りんご畑の中にあり、石室の石を残すのみ	
縄中)土器、打製石斧、磨製石斧、石皿			157
縄早)茅山式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石錐、石匙/弥後)箱清水式	異状なし	わずかに遺物が採集できる	158
縄)石鏃/弥)磨製石斧			159
縄中)加曽利E式、打製石斧、磨製石斧、石匙/古)土師器	一部破壊	遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	160
段郭、堀切、石垣、土塁	異状なし	町指定史跡	161
古)円墳、土師器、須恵器の出土を伝える	全壊	遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布図)	162
平)土師器	一部破壊	国道沿いのため、開発が危惧される	163
古)円墳、横穴式石室、勾玉、金環、直刀、鉄鏃、須恵器	全壊	現在では遺構は全く確認できない 遺物は昭和31年出土、上田市神科小学校所蔵	164
縄中)加曽利E式		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	165
縄中)加曽利E式、石鏃、石錐	一部破壊	団地造成にて、一部包含層を失う	166
古)円墳、勾玉の出土を伝える	全壊	現在では遺構は全く確認できない	167
古)円墳、横穴式石室、直刀3などの出土を伝える	全壊	現在では遺構は全く確認できないが、昭和初年頃まで石室があったという	168
平)土師器	一部破壊	北番匠A遺跡を改称住宅建設で一部包含層を失う	169
古後)鬼高式/平)土師器	一部破壊	北番匠B遺跡を改称	170
縄前)有尾式、縄中)加曽利E式、打製石斧、石匙 弥後)箱清水式/古)赤彩土師器、須恵器/平)土師器、須恵器、灰釉陶器	一部破壊	遺物が多量に採集できるが、宅地化が進んでおり、危惧される	171
縄中)加曽利E式/平)土師器	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される	172
古後)鬼高式/平)土師器、須恵器	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される 昭和49年発掘調査(文献41,42)	173

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　在　地	地図	地　目	時　代
174	1262	古墳群	藤沢古墳群１号墳	本原・大畑 藤沢 1,188-1	26	畑	古墳
	1264		藤沢古墳群２号墳	本原・大畑 藤沢1,189-1	26	畑	古墳
	1263		藤沢古墳群３号墳	本原・大畑 藤沢 墓地内	26	墓地	古墳
175	7080	単独出土	大畑遺跡	本原・大畑 藤沢			縄文
176	7074	包蔵地	北郷沢遺跡	本原・下郷沢 北郷沢	26	畑	縄文
177	7073	包蔵地	南郷沢遺跡	本原・下郷沢 南郷沢	26	畑	中世～
178	1268	古墳	殿蔵院古墳	本原・竹室 殿蔵院		畑	古墳
179	－	城館跡	真田氏館跡	本原・御屋敷	26	公園	中世
	－	包蔵地	御屋敷遺跡	本原・御屋敷 厩跡付近	26	公園	縄文
180	1246 1247	集落址	山崎遺跡	本原・山崎／竹室	26	畑・宅地	縄文・古墳・平安
181	7081	包蔵地	北町上遺跡	本原・北町上	26	畑・宅地	縄文・古墳・平安
182	1248	古墳群	広山寺古墳群１号墳（広山寺古墳）	本原・南町上2,211	26	山林	古墳
	1249		広山寺古墳群２号墳（竹藪塚古墳）	本原・南町上2,210－1	26	山林	古墳
183	7077	包蔵地	南町上遺跡	本原・南町上 ＪＡ本原支所付近	26	畑	縄文・古墳・平安
184	－	包蔵地	上原遺跡	本原・上原 町下	26	畑	縄文・弥生
185	－	包蔵地	町上遺跡	本原・上原 町上	26	畑	縄文・弥生・古墳・平安
186	－	包蔵地	町下遺跡	本原・中原 町下	26	畑	縄文・古墳・平安
187	1251	古墳群	町下古墳群１号墳	本原・上原 町下1,886－1	26	畑	古墳
	1252		町下古墳群２号墳	本原・上原 町下1,886－2	26	畑	古墳
	9034		町下古墳群３号墳	本原・上原 町下1,883	26	畑	古墳
	9033		町下古墳群４号墳	本原・上原 町下1,888－1	26	畑	古墳
	9032		町下古墳群５号墳	本原・上原 町下1,896－1/1,877－1	26	畑	古墳
188	1250	古墳群	桜林古墳群１号墳	本原・東出早1,946	26	山林	古墳
	9031		桜林古墳群２号墳	本原・東出早1,946	26	山林	古墳
189	1260	古墳	鶴ノ子田古墳	本原・鶴ノ子田		畑	古墳
190	7079	散布地	堰合遺跡	本原・堰合		畑	縄文・弥生
191	1256	古墳群	九久館古墳群１号墳	本原・下原 九久館239	26	宅地	古墳
	1257		九久館古墳群２号墳	本原・下原 九久館250	26	宅地	古墳
192	1253	古墳	矢倉城古墳（櫓城古墳）	本原・下原 東出早1,980	26	宅地	古墳
193	1254	古墳群	西出早古墳群１号墳	本原・下原 西出早42	26	宅地	古墳
	1255		西出早古墳群２号墳	本原・下原 西出早43	26	宅地	古墳

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
古)円墳、横穴式石室	半壊	石室を残す　町指定史跡(文献34,52)	174
古)円墳	半壊	町指定文化財	
古)円墳	全壊	現在では遺構は全く確認できない	
縄)磨製石斧		遺跡地を特定できず不明(県史遺跡地名表)	175
縄)石鏃	異状なし		176
陶器類	異状なし	陶器の出土が多い	177
	全壊	遺跡地不明　「小県郡史」によるとかつて2基あったという	178
土塁、(大手口、搦手口、木戸口)、厩跡、石敷、堀、水路状石積遺構、土鍋、鉢、かわらけ、古銭	一部破壊	平成3年発掘調査(文献3,40,64,65) 県史跡	179
縄早)条痕文系、縄前)花積下層式併行期・神ノ木式・諸磯b式・羽状縄文系、縄中)土器、石鏃、石匙、石斧	一部破壊	平成3年発掘調査(文献64)	
縄前)黒浜式、北白川下層Ⅱ式、北白川下層Ⅲ式、縄中)五領ケ台、勝坂式、加曽利E式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石匙、石錐、石皿、土偶/古後)土師器/平)土師器、須恵器	一部破壊	県No.1246竹室遺跡を含める 宅地化が進んでおり、危惧される(文献61,74)	180
縄前)黒浜式、縄中)五領ケ台、勝坂式、加曽利E式、打製石斧、/古後)土師器/平)土師器、須恵器	一部破壊	県No.7081地蔵堂遺跡を含める 宅地化が進んでおり、危惧される	181
古)円墳、横穴式石室	一部破壊	町指定史跡　以前、室に転用され、一部破壊	182
古)円墳、横穴式石室	一部破壊	土取り工事中に石室を発見、天井石を失っている	
縄中)加曽利E式、打製石斧、石皿/古後)土師器/平)土師器、須恵器	一部破壊	古墳時代の土師器の出土が多い 宅地化が進んでおり、危惧される	183
縄)土器、弥後)箱清水式/平)土師器、須恵器	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される	184
縄)土器/弥後)磨製石鏃古)土師器/平)土師器、須恵器	一部破壊	周辺まで宅地化が進んでおり、危惧される	185
縄)土器/古)土師器/平)土師器、須恵器	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される	186
古)円墳、土師器、須恵器の出土を伝える	半壊	奥壁のみを残す	187
古)円墳、横穴式石室、直刀、鉄鏃、須恵器の出土を伝える	一部破壊	石室内部の状況不明	
古)円墳	全壊	現在では遺構は全く確認できない	
古)円墳、直刀2本の出土を伝える	半壊	わずかに遺構を残すのみ	
古)円墳、須恵器	半壊	奥壁、側壁、天井石を残す	
古)円墳、横穴式石室	一部破壊	頂部が削平され、天井石を失っている	188
古)円墳、須恵器の出土を伝える	半壊	わずかに墳丘を残すが、内部の状況は不明	
古)円墳、直刀、馬具の出土を伝える	全壊	遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布図)	189
縄中)加曽利E式、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石匙、石錐、弥)磨製石鏃	全壊	一帯が水田となり、遺跡地を特定できず	190
古)円墳、切子玉2、ガラス小玉2、金環5、人骨	全壊	一帯が宅地となり、墳丘を失う	191
古)円墳、直刀の出土を伝える	全壊	一帯が宅地となり、墳丘を失う	
古)円墳勾玉2	半壊	石室の奥半分を残すのみ	192
古)円墳、横穴式石室	半壊	天井石、側壁の一部が残る	193
古)円墳、横穴式石室	全壊	奥壁のみを残す	

町No.	県No.	種　別	遺　跡　名	所　　在　　地	地図	地　目	時　　代
194	1258	古墳	村中古墳	本原・下原 村中212	26	宅地	古墳
195	1259	古墳	刷毛田古墳	本原・刷毛田	26	水田	古墳
196	－	包蔵地	東出早遺跡	本原・東出早	26	畑	縄文
197	－	集落址	境田遺跡	本原・東出早	26・28		旧石器・縄文・古墳・平安・中世
198	－	埋蔵銭	出早雄神社参道脇出土銭	本原・東出早	28	畑	中世
199	－	包蔵地	西田遺跡	本原・下原 西田	26	畑	中世
200	－	古墳	小沼長者古墳	本原・境田		畑	古墳
201	－	集落址	南原遺跡	本原・境田	28	畑	縄文
202	－	包蔵地	鶴巻遺跡	本原・下原 鶴巻	28	畑	縄文
	9035		こふじ塚古墳	本原・中原 南町上		畑	
			広崎古墳／広瀬古墳	本原・中原 南町上			

※1　丸子町・高梨氏所蔵文書 宝永五年二月二十二日の条「此所ニ真田御先祖之御産所のかまい有角間村松尾城下此構南西し請候地形ミだ堂西北ノ角ニ在長西東弐町程も在南北四五十間ほどつゝ在」

※2　中央の五輪塔に「寛永十一甲戌年七月二十一日陽春院殿華発長閑居士」の銘あり

※3　本書101ページ参照

遺構及び遺物	破壊規模	調査の有無・現況等	町No.
古)円墳勾玉2	全壊	天井石が残るのみ	194
古)円墳	全壊	現在では遺構は全く確認できない	195
縄中)土器/平)土師器 須恵器	一部破壊	宅地化が進んでおり、危惧される	196
住居址、土坑、小鍛冶遺構 旧)槍先型尖頭器/縄文前期～晩期土器片、石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、石錐、磨石、 石棒/弥後)箱清水式/古)土師器、鉄製品(手斧)、石製模造品(臼玉)/平)土師器、須恵器、灰釉陶器、鞴片、墨書土器/中)古銭	発掘調査	平成6年発掘調査(文献72) 圃場整備事業終了地域	197
現存273枚(最新銭　至大通寶)	全壊	(文献72)	198
積石遺構、かわらけ、陶器、石臼	発掘調査	平成6年発掘調査(文献72)	199
古)円墳	全壊	遺跡地を特定できず不明(町遺跡分布図)	200
縄)土器	一部破壊	宅地化により、一部包含層及び遺構を失う	201
縄)土器・打製石斧	異状なし	今後開発が危惧される区域である。	202
なし		伝説を伴う塚であるが、古墳とは認められず(町遺跡分布図)	
		台帳記入の際、「広山寺」古墳を転記ミスしたものか？	

附　真田町の遺跡に関する主な文献

番号	編　著　者	発表年	文　献　名
1	小山真夫	明治40(1907)年	「信濃国小県郡上古遺物発見地名表及古墳所在地一覧」『考古界』 6－4
2	小県郡役所	大正11(1922)年	『小縣郡史』
3	藤沢直枝	大正14(1925)年	「真田氏の居城（松ノ尾城）及居館（真田御屋敷）」『県史蹟報告』 4
4	藤沢直枝	昭和10(1935)年	『歴史上より見たる菅平』
5	瀧澤壽三	昭和12(1937)年	「信濃國吹通岩窟」『中部考古學會研究報告』第一冊　先史遺跡高距の調査　中部考古学会
6	神田五六	昭和13(1938)年	「石器時代遺跡菅平洞窟に就いて」『信濃』Ⅰ7－1　信濃史学会
7	小県上田教育会	昭和14(1939)年	『郷土の歴史』
8	栗岩英治	昭和14(1939)年	「菅平弥生式洞窟遺跡」『県史蹟報告』20　長野県教育委員会
9	栗岩英治	昭和18(1943)年	「石器時代の菅平」『信濃』Ⅱ20－3　信濃史学会
10	八幡一郎	昭和22(1947)年	『小県文化の黎明』　上小郷土研究会
11	五十嵐幹雄	昭和24(1949)年	『小県郡石器時代地名表』
12	五十嵐幹雄	昭和29(1954)年	「上田・小県考古学概観」『上小教育会報』19　上小教育会
13	五十嵐幹雄	昭和29(1954)年	「長野県小県郡長村菅平東組遺跡調査概報」『信濃』Ⅲ6－7　信濃史学会
14	信濃史料刊行会	昭和31(1956)年	『信濃史料』第1巻（上・下）
15	永峯光一・樋口昇一	昭和37(1962)年	「菅平高原踏査短信」『洞穴遺跡調査会会報』 4
16	八幡一郎・上野佳也	昭和37(1962)年	「長野県菅平東組の早期縄文式文化遺跡について」『考古学雑誌』48－2　日本考古学会
17	五十嵐幹雄	昭和40(1965)年	「新石器時代の菅平」『続菅平その自然と人文』　菅平研究会
18	小林幹男	昭和40(1965)年	「新石器時代の菅平」『続菅平その自然と人文』　菅平研究会
19	丸山敞一郎	昭和41(1966)年	「菅平洞窟遺跡（陣の岩遺跡）予備調査略報」『信濃考古』15　長野県考古学会
20	長野県教育委員会	昭和42(1967)年	『新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書－昭和41年度－』
21	文化財保護委員会	昭和42(1967)年	『全国遺跡地図（長野県）』
22	長財産区	昭和42(1967)年	『長村誌』
23	永峯光一・樋口昇一	昭和42(1967)年	「長野県唐沢岩陰」『日本の洞穴遺跡』　日本考古学協会
24	丸山敞一郎	昭和42(1967)年	「菅平陣の岩遺跡について」『信濃考古』17，18　長野県考古学会
25	森嶋　稔	昭和43(1968)年	「長野県小県郡真田町唐沢B遺跡の調査」『日本考古学協会昭和43年度大会発表要旨』　日本考古学協会
26	川上　元	昭和43(1968)年	「長野県菅平高原の先土器文化遺跡(1)･(2)」『信濃』Ⅲ20－4、11　信濃史学会
27	丸山敞一郎	昭和43(1968)年	「長野県菅平陣の岩岩陰遺跡調査概報」『信濃』Ⅲ20－5　信濃史学会
28	森嶋　稔	昭和44(1969)年	「小県郡唐沢Ｂ遺跡」『信濃考古』28　長野県考古学会
29	長野県教育委員会	昭和45(1970)年	『農業振興地域等開発地域埋蔵文化財緊急分布調査報告書－昭和44年度－』
30	川上　元	昭和45(1970)年	「古代人と水－菅平高原の古代遺跡にみられる様相」『上田盆地』13
31	森嶋　稔・川上　元	昭和45(1970)年	『菅平の古代文化』　菅平研究会
32	川上　元	昭和46(1971)年	「異形部分磨製石器の新資料」『信濃』Ⅲ19－4　信濃史学会
33	永峯光一	昭和46(1971)年	「長野県小県郡陣の岩岩陰」『日本考古学年報』19　日本考古学協会
34	川上　元	昭和48(1973)年	「真田町藤沢古墳の保存運動」『上小考古』 5　上小考古学会
35	小原　等	昭和48(1973)年	「小県郡真田町菅平小島沖遺跡出土の石器」『長野県考古学会誌』16　長野県考古学会
36	川上　元・小林幹男	昭和48(1973)年	「真田町・日向畑遺跡の発掘調査」『上小考古』 2　上小考古学会
37	川上　元	昭和48(1973)年	「日向畑遺跡」『日本考古学年報』24　日本考古学協会
38	真田町教育委員会	昭和48(1973)年	『日向畑遺跡』
39	下平秀夫	昭和48(1973)年	「ウズラ沢Ｂ遺跡出土の土器」『土師式土器集成本編』 3
40	長野県教育委員会	昭和49(1974)年	「真田氏館跡」『県指定文化財調査報告』 5
41	真田町教育委員会	昭和50(1975)年	『雁石・藤沢』

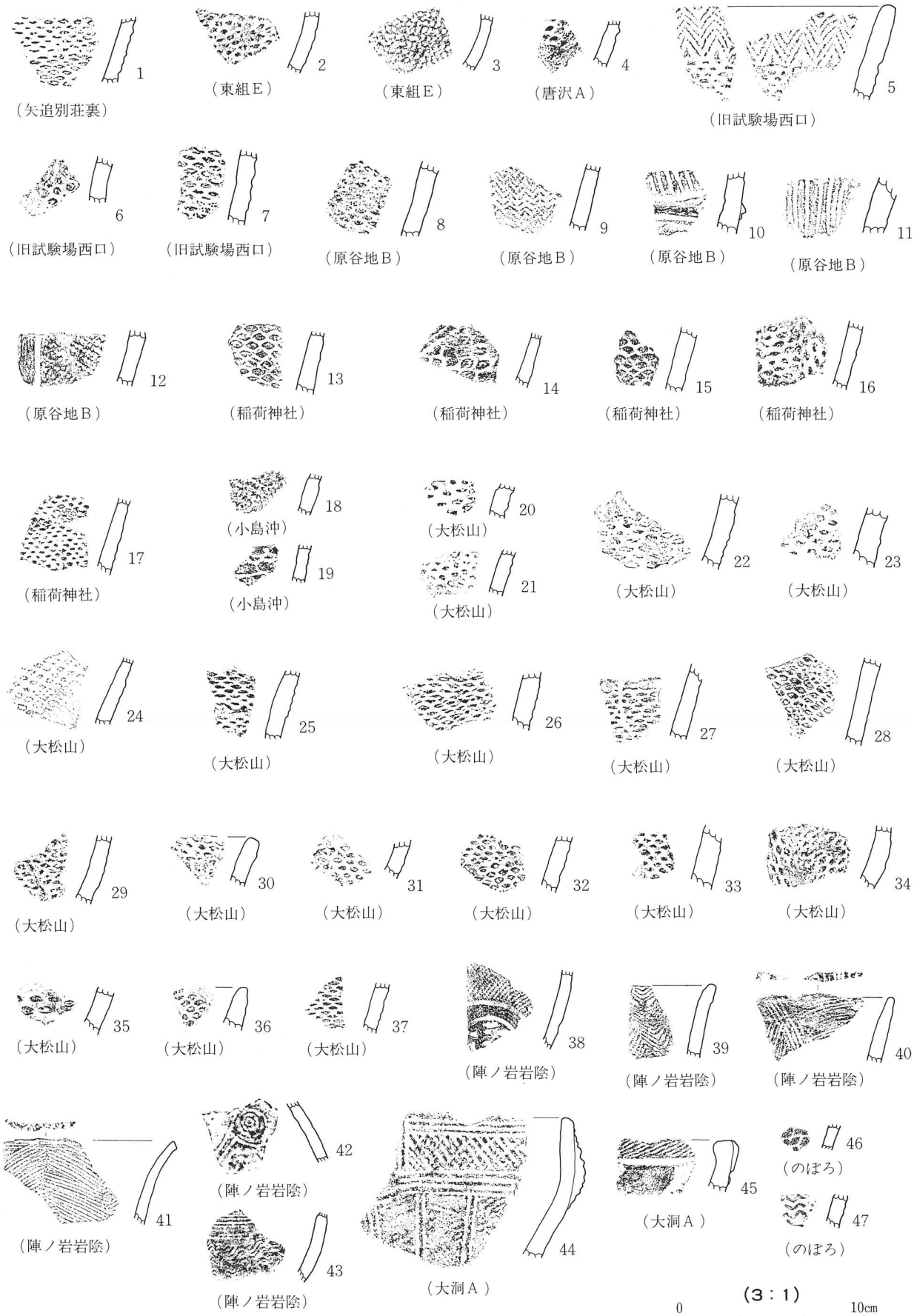
番号	編　著　者	発表年	文　献　名
42	川上　元	昭和51(1976)年	「雁石遺跡」／「藤沢遺跡」『日本考古学年報』27　日本考古学協会
43	坂口益次	昭和51(1976)年	「山本畑遺跡－平安時代住居跡」『あずまや』15　菅平研究会
44	森嶋　稔	昭和52(1977)年	「菅平・学校敷地遺跡出土の旧石器文化資料の意味するもの」『上田・小県』29　小県上田教育会
45	川上　元・坂口益次・小原　等・飯島繁夫・林　和男	昭和52(1977)年	「菅平高原山本畑遺跡緊急発掘調査報告」『長野県考古学会誌』29　長野県考古学会
46	真田町教育委員会	昭和52(1977)年	『菅平高原山本畑遺跡緊急発掘調査報告』
47	武蔵工大付属中学校	昭和52(1977)年	『菅平　歴史と民俗を訪ねて』
48	長野県教育委員会	昭和52(1977)年	「菅平唐沢岩陰遺跡」『県指定文化財調査報告』8
49	一志茂樹	昭和53(1978)年	「新考名族真田氏の発祥について－真田町の城跡群の踏査から」『千曲』20　東信史学会
50	川上　元	昭和53(1978)年	「山本畑遺跡」『日本考古学年報』29　日本考古学協会
51	川上　元	昭和54(1979)年	「男女倉旧石器遺跡群・菅平旧石器遺跡群」『千曲』21　東信史学会
52	長野県考古学会	昭和56(1981)年	『長野県埋蔵文化財白書』
53	長野県史刊行会	昭和56(1981)年	『長野県史』考古資料編１－１　遺跡地名表
54	小池雅夫	昭和56(1981)年	「上田小県地方の堀の内」『信濃』33－11　信濃史学会
55	長野県史刊行会	昭和57(1982)年	『長野県史』考古資料編１－２　主要遺跡（北・東信）
56	真田町教育委員会	昭和57(1982)年	『真田氏城跡群』
57	文化庁	昭和58(1983)年	『全国遺跡地図20長野県』
58	片山正行	昭和58(1983)年	「縄文の人々」『菅平牧場百年史』　菅平牧場畜産農業協同組合
59	長野県教育委員会	昭和58(1983)年	『長野県の中世城館跡－分布調査報告書－』
60	長野県史刊行会	昭和63(1988)年	『長野県史』考古資料編１－４　遺構・遺物
61	宮下知茂	昭和63(1988)年	「山崎遺跡で採集した二つの石匙」『上田小県誌歴史研究紀要』第４号　上田小県誌刊行会
62	真田町教育委員会	平成２(1990)年	『四日市遺跡』
63	小原　等	平成２(1990)年	「菅平高原の歴史Ⅰ－考古を中心として－」『菅平高原誌』　真田町教育委員会
64	真田町教育委員会	平成４(1992)年	『真田氏館跡』
65	中沢克昭	平成６(1994)年	「真田氏の本拠を訪ねて」『信濃』46－11　信濃史学会
66	上田小県誌刊行会	平成７(1995)年	『上田小県誌』第６巻　歴史編（上）考古
67	真田町教育委員会	平成８(1996)年	『四日市遺跡Ⅱ』
68	和根崎　剛	平成８(1996)年	「真田町四日市遺跡出土の玦状耳飾り」『長野県考古学会誌』80　長野県考古学会
69	真田町教育委員会	平成９(1997)年	『町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
70	真田町教育委員会	平成９(1997)年	『四日市遺跡Ⅲ』
71	真田町教育委員会	平成９(1997)年	『境田遺跡・西田遺跡』
72	千曲川水系古代文化	平成10(1998)年	『唐沢Ｂ遺跡』
73	研究所		
	和根崎　剛	平成10(1998)年	「山家の真田氏館跡出土の渡来銭について」『千曲』97　東信史学会
74	真田町教育委員会	平成10(1998)年	『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
75	真田町誌刊行会	平成10(1998)年	『真田町誌』歴史編　上
76	小柳義男	平成11(1999)年	「四阿山の山岳信仰」『長野県立歴史館研究紀要』５　長野県立歴史館
77	和根崎　剛	平成11(1999)年	「真田町四日市遺跡の文字資料」『千曲』102　東信史学会

4　採集遺物一覧表・図版

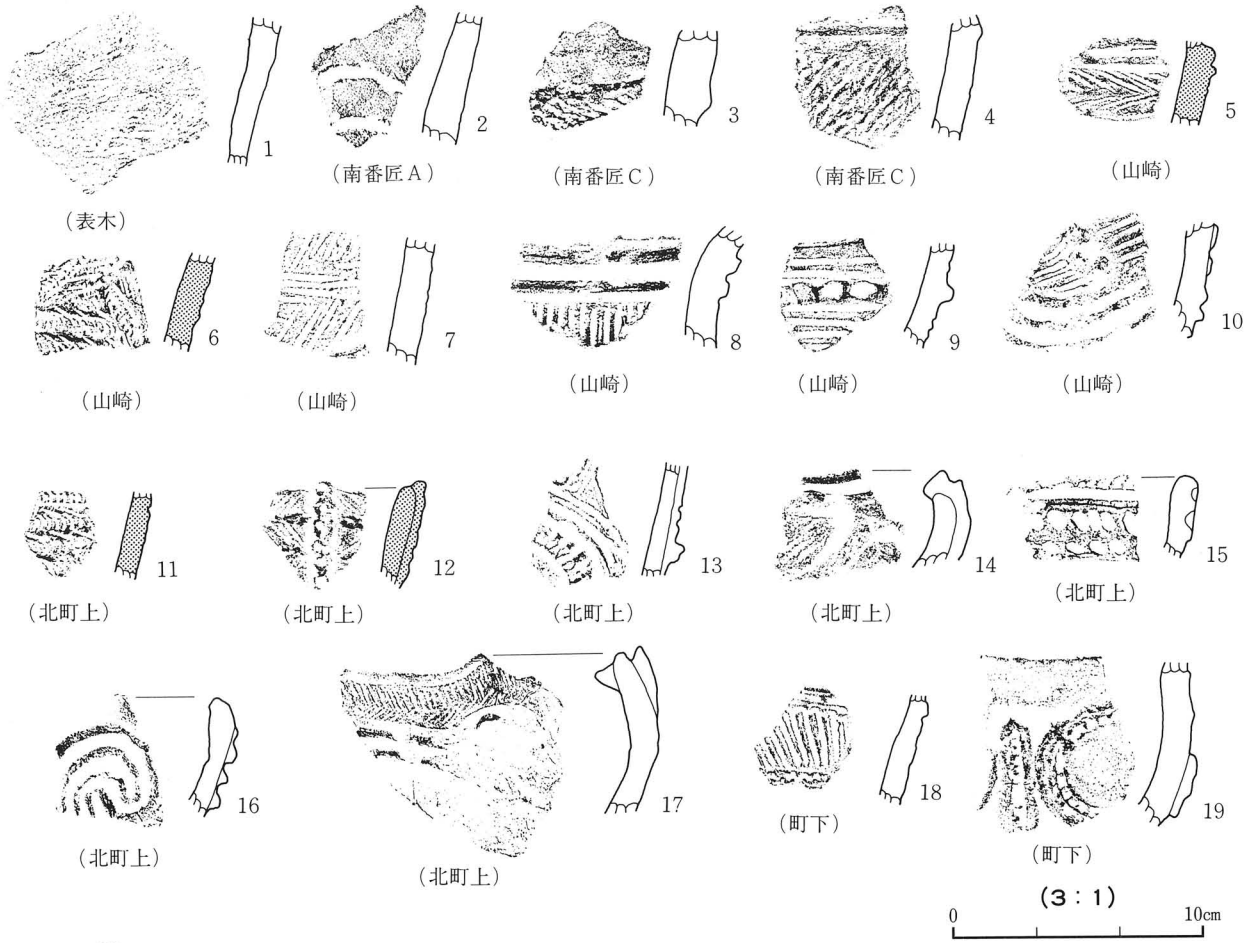
町No.	遺跡名	総数	縄文		弥生		古墳		平安			中近世		その他	
			土器	石器	土器	石器	土師	須恵	土師	須恵	陶器	土師質	陶器		
1	石戸山	3		3											
8	西組F	1		1											
30	長寿園	5		4			1								
31	十二塚原	1		1											
41	原谷地A	1		1											
44	原谷地D	1		1											
53	秋葉神社	1		1											
55	大松山	1		1											
59	ウズラ沢A	2		2											
61	陣ノ岩岩陰	23	7	3	4		8							イモガイ	1
62	前熊久保岩陰	3			1		2								
70	富沢畑	3		3											
78	のぼろ	17	15	1									1		
79	しょてばら	6					5						1		
80	土合	1		1											
82	たかや	1		1											
88	芳ノ平	3	1						2						
90	角間	15	1						6	3	2		3		
92	和熊B	2	2												
96	上野屋敷の館跡推定地	6										5	1		
99	善慶	2							2						
100	上法性寺	4	1						2	1					
106	長谷寺下	13		4					9						
112	雁石	49	13						34	1	1				
115	四日市	222	73	3			21		82	40					3
	四日市1	12	4	3						5					
	四日市2	82	66						8	5				鉄滓	3
	四日市3	128	3				21		74	30					
116	尾引城（横尾城）	7										3	3	石臼	1
130	和平	18	0	16									2		
	和平1	8		8											
	和平2	10		8									2		
137	中横道上平	51	1	3					29	11	5				2
	中横道上平1	8							8						
	中横道上平2	20		2					8	6	2			鉄滓	2
	中横道上平3	23	1	1					13	5	3				
138	下日影	1		1											
151	根小屋城	1												石臼	1
152	宮原	15	1	2					2	3	1		6		
	宮原1	10	1	2					1				6		
	宮原2	5							1	3	1				
156	北赤井	2							1				1		
157	花水	45	8						35		2				
162	南荒井	9	1						8						
	南荒井1	1							1						
	南荒井2	8	1						7						
	表木	115	15	1					59	31	9				

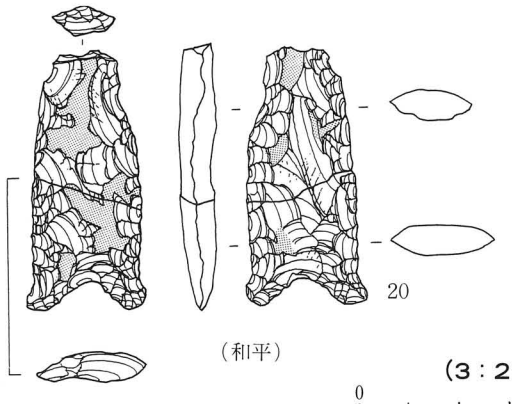
町No.	遺跡名	総数	縄文		弥生		古墳		平安			中近世		その他	
			土器	石器	土器	石器	土師	須恵	土師	須恵	陶器	土師質	陶器		
165	表木1	32	3						19	10					
	表木2	7							4		3				
	表木3	25	6						8	8	3				
	表木4	43	6	1					27	6	3				
	表木5	8							1	7					
168	南番匠A	20		2					12	3	3				
169	南番匠B	22	9	5					3	5					
170	南番匠C	112	45	12			12		34	8	1				
	南番匠C1	48	25	5					13	4	1				
	南番匠C2	8							7	1					
	南番匠C3	56	20	7			12		14	3					
172	藤沢	58	1				34		21	2					
175	北郷沢	56							34	3	4		14	寛永通寶	1
176	南郷沢	101							13	9	1	1	76	瓦	1
178	御屋敷	12		2					5	1			4		
	御屋敷1	6							1	1			4		
	御屋敷2	6		2					4						
179	山崎	359	267	36					36	12	8				
	山崎1	112	82	9					17	2	2				
	山崎2	6	1						3	1	1				
	山崎3	136	104	12					10	5	5				
	山崎4	87	65	15					4	3					
	山崎5	18	15						2	1					
180	北町上	891	480	142			39	6	123	70	12		18		1
	北町上1	117	86	6			3		15	3	1		3		
	北町上2	71	45	19					3	3			1		
	北町上3	99	61	27					5				6		
	北町上4	100	83	13					3				1		
	北町上5	7	5						2						
	北町上6	152	75	60			2		9		2		3	土製円盤	1
	北町上7	17	3						12	2					
	北町上8	47	35	1					6	1			4		
	北町上9	76	53	13					8	2					
	北町上10	22	9						10	3					
	北町上11	18	4	1					5	6	2				
	北町上12	7	4						2	1					
	北町上13	10	3						6	1					
	北町上14	59	14	2			4		12	27					
	北町上15	16					6	3	2	5					
	北町上16	54					16	1	20	14	3				
	北町上17	19					8	2	3	2	4				
182	南町上	1199	12	18	1	1	449	38	336	222	51	1	64		6
	南町上1	22	3	7					6	2			2	瓦	2
	南町上2	6	1	2					2					瓦	1
	南町上3	143					33	2	49	46	10		3		
	南町上4	78					12		29	14	5	1	17		
	南町上5	13							5	8					
	南町上6	58	1	1			9	1	18	23	5				
	南町上7	87					38		8	5	5		31		

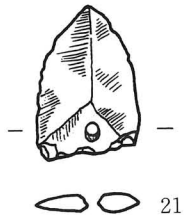
町No.	遺跡名	総数	縄文		弥生		古墳		平安			中近世		その他	
			土器	石器	土器	石器	土師	須恵	土師	須恵	陶器	土師質	陶器		
182	南町上8	98		1			43	9	22	15	3		5		
	南町上9	142		3			67	10	34	28					
	南町上10	58					32	2	9	7	3		5		
	南町上11	178	5				87	8	51	21	5			土製円盤	1
	南町上12	45					21		14	4	6				
	南町上13	42		1			17		11	8	3		1	土製円盤	1
	南町上14	37	1				18		12	5	1				
	南町上15	106	1				49	5	29	18	4				
	南町上16	33			1		20	1	6	5					
	南町上17	12		1			3		3	4				土製円盤	1
	南町上18	1				1									
	南町上19	14		1					12		1				
	南町上20	26		1					16	9					
184	町下	107	6	2		1	12		54	24	5		3		
	町下1	20		1					11	5			3		
	町下2	14							9	5					
	町下3	19	6	1					10	1	1				
	町下4	32							20	8	4				
	町下5	22				1	12		4	5					
186	町下古墳群5号墳	1						1							
192	桜林古墳群付近	2					1	1							
195	西出早	109		2			29		54	16	3		5		
	西出早1	54		2			15		30	6			1		
	西出早2	12					2		6	2	1		1		
	西出早3	36					5		18	8	2		3		
	西出早4	7					7								
196	境田	91		1			12		38	19	5		1		15
	境田1	20					2		2	1				埋蔵銭	15
	境田2	15					4		4	7					
	境田3	9					5		3				1		
	境田4	3					1			2					
	境田5	13							7	5	1				
	境田6	4							4						
	境田7	8							4	3	1				
	境田8	18		1					13	1	3				
	境田9	1							1						
198	西田	29							24	3		1	1		
	西田1	5							4	1					
	西田2	6							6						
	西田3	11							7	2		1	1		
	西田4	7							7						
200	南原	13		2						10			1		
	南原1	6								5			1		
	南原2	7		2						5					
201	鶴巻	12		5					6				1		
遺物総数		3844	960	282	6	2	625	46	1064	497	113	11	206		32

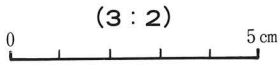


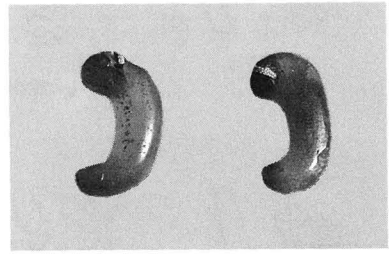
第13図　採集遺物実測図及び拓影



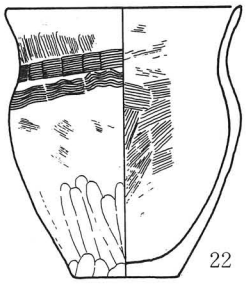


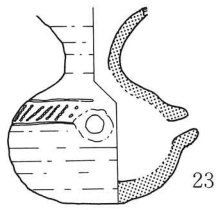


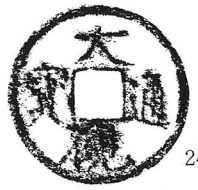


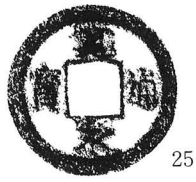


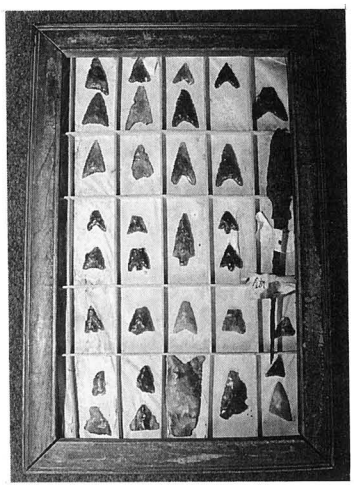
矢倉城古墳出土の勾玉（坂口誠一氏所蔵）



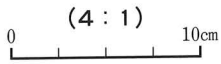






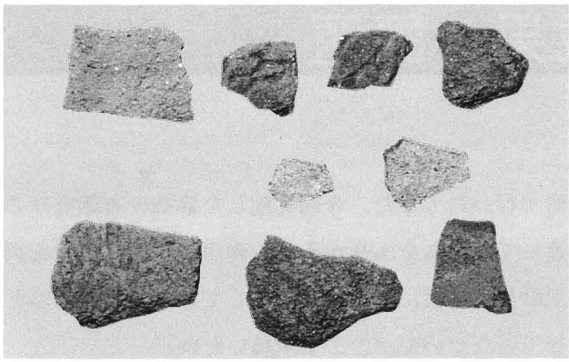


和平遺跡周辺で採集された遺物
（関保氏所蔵）

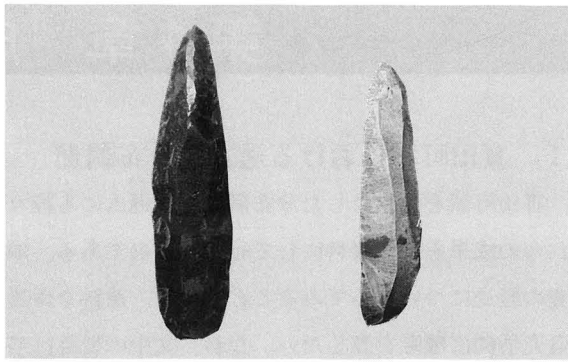


24.25は原寸

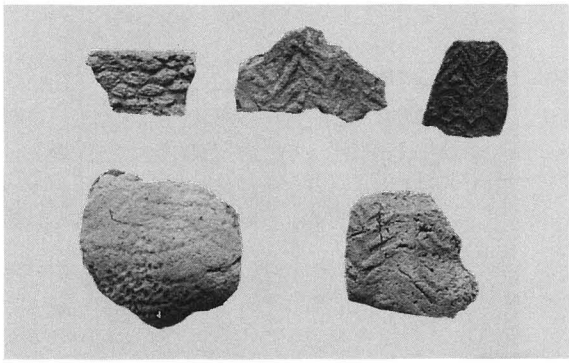
第14図　採集遺物実測図及び拓影

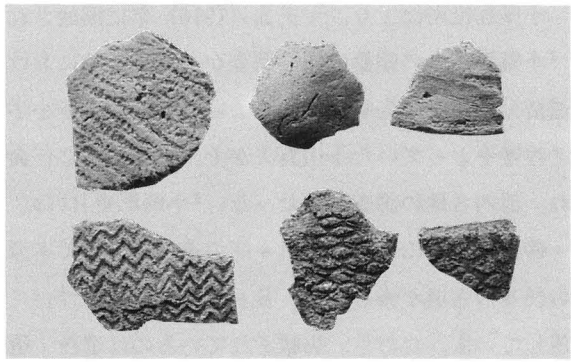


小島沖遺跡出土土器



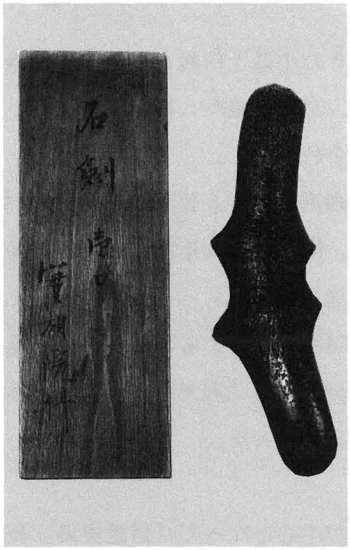
東組Ｅ遺跡出土削器



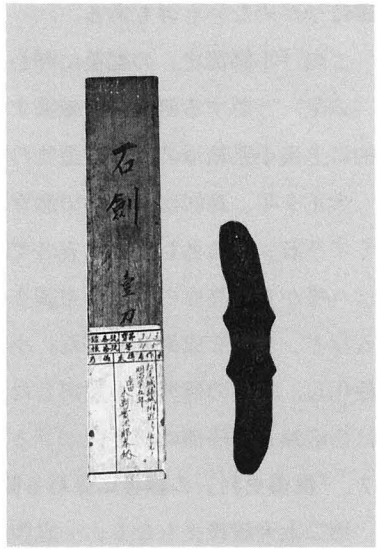


唐沢Ｄ遺跡出土土器

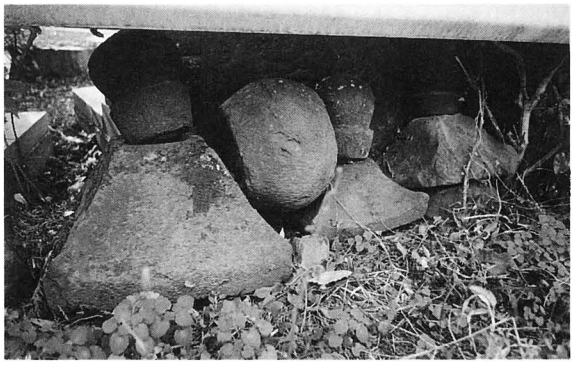
山崎遺跡出土土偶



実相院所蔵独鈷石



山家神社所蔵独鈷石



山崎遺跡出土五輪塔残欠

尾引城（横尾城）跡出土石臼破片

第15図　遺物写真

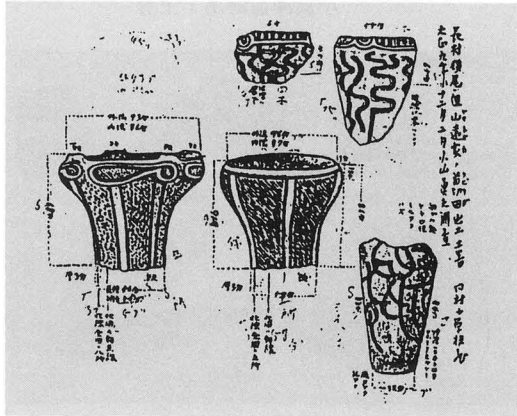
第４章　成果と課題

１　真田町域における過去の分布調査

真田町域を対象にした分布調査は、過去にも様々な形で行われてきた。今回実施した詳細分布調査はこれらの成果を基礎資料にして行ったものである。順を追ってそれらをふりかえり、真田町における分布調査の経過についてみてみることにする。遺跡を保護・記録し、後世にその情報を残してきた先学の情熱と研究活動に敬意を表したい。なお、文中の敬称は略させていただいたが、ご了承願いたい。

１.『小縣郡史』の編纂に係わる調査

小県郡役所により、大正５（1916）年に開始された『小縣郡史』の編纂に係る調査が、真田町域における遺跡分布調査の先駆と言ってよい。当時、丸子小学校で教鞭をとっていた小山真夫がその編纂主任に任命され、郡内各地の調査にあたった。『小縣郡史』には、長・傍陽・本原旧３ヶ村で11ヶ所の遺跡、そして本原村の16基の古墳が報告され、８ヶ所の山城跡について詳述している。ただし、掲載されているのは遺跡・遺物一覧表のみで分布図はなく、現在では遺跡の場所が正確につかめないものもある。



第１図　長村横尾組山遠家出土の縄文土器の図
（『小山真夫野帳』小山直氏所蔵）

この『小縣郡史』の編纂に関わってきた小県上田教育会は、この後、「上田市・小縣郡の考古学的調査」（未完）と題する研究誌を編纂すべく、鳥居龍蔵や八幡一郎といった中央の研究者を指導者に招き、精力的に上田小県地域の遺跡・遺物の調査を行った。

大正９年、鳥居は小県上田教育会の柳沢平助らと菅平の遺跡･遺物を調査した。この際、特殊磨石に「こくずり石」と命名した話は有名である。柳沢らは大正12年にも再調査を行っている。昭和９（1934）年には八幡が菅平高原の遺跡分布調査を実施し、当時もっとも古い縄文土器とされていた押型文土器を採集するなど、多大な成果をあげた。小県上田教育会によるこの一連の活動が、上田小県地域の考古学研究を活性化し、多くの研究者を輩出した。しかし、第二次大戦へと世情が推移していく過程で、彼らの研究活動は否応無しに停滞の道を選ばざるをえなくなった。

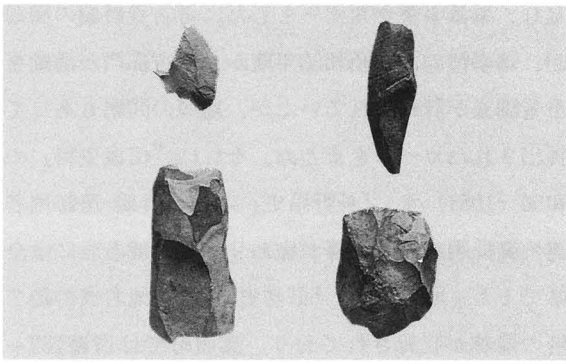
２.『信濃史料』の編纂に係わる調査

第二次大戦後まもなく、一志茂樹らが中心となって『信濃史料』刊行が計画された。長野県や信濃毎日新聞社により信濃史料刊行会が組織され、小県上田教育会に編纂に係る調査協力が要請された。同じ頃、小県上田教育会は、『上田小県誌』の編纂を決定し、考古部門については、『信濃史料』の調査と合わせて、上田小県全域の遺跡と出土遺物の悉皆調査を計画し、遺跡の表面採集調査を実施した。

真田町域でも小県上田教育会の調査のほか、昭和23（1948）年から五十嵐幹雄が遺跡の現地調査を行い、『小県郡石器時代地名表』を完成させた。また、昭和28年からは五十嵐のこの成果を基礎資料に、『信濃史料』編纂に携わっていた永峯光一、樋口昇一、麻生優、小宮山茂樹らにより現地踏査が行われ、資料が蓄積された。ここで特記したいのは、地元の研究家の活動である。菅平に在住していた小宮山は、早くから菅平の遺跡に着目し、学校敷地遺跡の後期旧石器のほか、多くの遺跡で遺物を採集していた。菅平の調査に携わった樋口、麻生が唐沢Ｂ遺跡の存在を知ったのは、小宮山が採集していた局部磨製石斧が契機であった。唐沢Ｂ遺跡は後に森嶋稔により発掘調査され、神子柴系文化に属する石器の優品が出土したことで知られている。また、昭和31年から永峯、樋口らが菅平に分布する岩陰・洞窟遺跡の分布調査を実施したの

も、小宮山、あるいは小林八郎らが唐沢岩陰などで採集していた遺物が契機であった。菅平高原の遺跡が考古学的に重要視されるようになった背景には、彼らの地道な研究活動があったからであり、それらの業績は高く評価されるべきものである。

なお、『信濃史料』には長、傍陽、本原の旧３ヶ村で98ヶ所の遺跡と、本原村の21の古墳が報告されている。しかし、遺跡の位置を記した分布地図はこの時も整備されることはなかった。



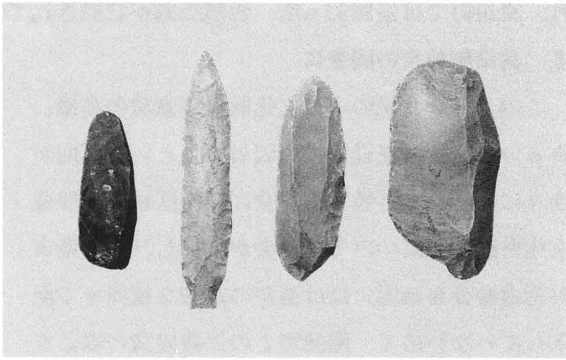
第２図　小宮山茂樹が採集した菅平学校敷地遺跡の石器（信濃国分寺資料館写真提供）

３．高度経済成長期の大規模開発に対応する調査

昭和30(1955)年頃からの高度経済成長期には、経済活動の振興により、全国的に工場団地造成、リゾート開発、旧国鉄線路の複線化、圃場整備などの事業が急増し、埋蔵文化財はかつてない危機的な局面を迎えることとなった。

これに対し、昭和41年に文化財保護委員会（文化庁文化財保護部の前身）は、各都道府県の教育委員会に遺跡地図の作成を指導し、埋蔵文化財保護のいっそうの推進を図った。長野県教育委員会では既に昭和27年から『信濃史料』作成のために、県内の遺跡・遺物の悉皆調査を行い、遺跡台帳を作成しつつあったので、これを基に各市町村教育委員会、長野県考古学会が協力して、翌年、『全国遺跡地図（長野県)』を作成、刊行した。この間、真田町域の調査に携わったのが、五十嵐幹雄や下原在住の清水貞夫らである。特に清水は旧本原村の遺跡の分布状況を詳細に調査し、「調査カード」を作成、報告している。１/75,000と広範囲を対象にした遺跡分布図であるものの、真田町の遺跡分布を示した最初の地図として評価される。県教委もこの分布地図を根拠に埋蔵文化財の保護施策を一段と前進させることとなった。

また、県教委は昭和40（1965）年から全県を視野にいれ、大規模開発予定地域において、試掘を伴う分布調査を実施した。真田町でも菅平及び本原地区が選定され、調査が実施された。



第３図　小宮山茂樹が採集した石戸山遺跡の石器

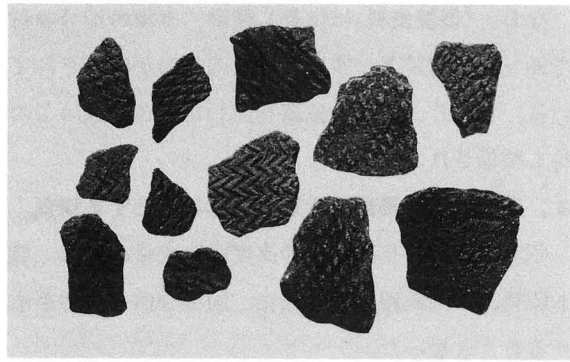
菅平地区では昭和41年度に「新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査」が実施された。当時、「菅平方式」と呼ばれる別荘団地の開発、菅平ダムの造成等の事業が県企業局によって計画されていた。調査は長野県考古学会に委託され、森嶋稔を団長とし、五十嵐幹雄、川上元、小宮山茂樹、丸山敞一郎、笹沢浩、小林孚、下平秀夫が参加し、11月19日から27日まで実施された。この際、34ヶ所の遺跡が新たに発見され、既に知られていた15の遺跡と合わせて、49ヶ所の遺跡が把握された。

また、昭和44年度には、「農業振興地域等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査」が本原地区を対象に実施された。これは本原に分布する古墳の現況調査が主で、田畑の造成で古墳が滅失する危険があったために行なわれたものである。調査には神村透、清水利雄、川上元、柳沢孝雄らが参加し、12月４日と５日の２日間にわたって行われた。この際、８基の古墳が新たに発見され、周知の16基と合わせて、24基の古墳が把握された。柳沢が作成した古墳分布図は、当時既に滅失してしまっていた古墳の位置も調査して記入してあり、今回の詳細分布調査ではたいへん有効な資料となった。

４．『長野県史』遺跡地名表の刊行

戦前から構想が練られていた『長野県史』は、刊行の気運の高まりにより、昭和43年に県史刊行会が発

足し、編纂事業がスタートした。考古資料編の構想は、『信濃史料』を受ける形で当初から計画されていたが、諸事情のため昭和53年度から考古部門が活動を開始、同年から調査が始まった。当初は全県の遺跡の悉皆調査が計画されていたが、期間の問題もあって、長野県考古学会に協力を要請し、各地域の会員から提出されたカードをまとめ、それに『信濃史料』のデータを補足する形で地名表が作られた。こうして昭和56（1981）年、『長野県史』考古資料編・遺跡地名表が刊行された。昭和40年代から続いていた中央道関連の発掘調査の成果等が加わり、この地名表には全県で１万ヶ所以上と、『信濃史料』遺跡地名表の約２倍の遺跡が収録されており、真田町では遺跡162ヶ所、古墳32基が把握されている。まさに大規模開発が契機となり、新発見の遺跡が増加するという皮肉な結果となった。



第４図　菅平各地で採集された押型文土器

５．文化庁主導による遺跡地図作成事業

昭和48（1973）年のオイルショックが契機となり、俗に言う低成長時代へと社会は転換したが、開発の波は全国いたる所で埋蔵文化財を破壊の危機に直面させていた。このような状況の中、文化庁は各都道府県教育委員会に市町村単位の遺跡分布図の作成を指導し、昭和52年、『長野県市町村遺跡分布地図』（マイラーベース）が県教委により作成された。真田町の場合、1/25,000の地形図に遺跡の位置を記したものであり、これまで作成された分布図より遺跡の位置が把握しやすい利便性があった。後に作成されるいくつかの分布地図の基本資料となるものであり、この分布図作成の意義は高く評価される。

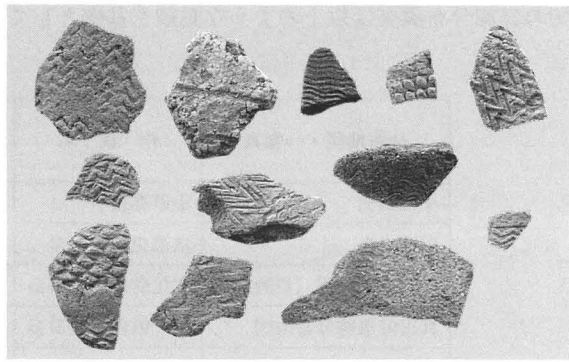
また、昭和58年には文化庁により、１/50,000地形図を用いて『全国遺跡地図 20 長野県』が作成された。これは先の『全国遺跡地図（長野県）』に『長野県市町村遺跡分布地図』の成果を加えて作成したものとされ、真田町では遺跡92ヶ所、古墳25基が収録されている。

６．真田町独自の調査に

このような状況の中、文化財保護意識の高揚、あるいは発掘調査経費の原因者負担という原則が徐々に浸透し、町教育委員会に開発区域内の埋蔵文化財の有無についての照会が増加し、『長野県市町村遺跡分布地図』には遺跡の詳細な範囲まで記入していないので、開発側との保護協議の際に支障をきたすようになった。そのため、昭和60年代になって、町教委は町独自の分布地図作成を計画し、1/10,000地形図に詳細な遺跡範囲を記した分布図の作成にとりかかった。調査員には菅平在住の小原等を依頼し、地図の作成を始めたのだが、小原が病により急逝し、計画が中断した。小原は菅平小学校で教鞭をとる傍ら、菅平高原を精力的に踏査し、神子柴型石斧や押型文系土器、数少ない弥生時代の遺物を表面採集し、子どもたちの教材、そして、菅平高原自然館に展示するなどして、教育普及活動にも尽力した。小原が採集した遺物は先年、町に一括して寄贈され、今回の詳細分布調査においても、菅平地区の調査の際に有効な資料となった。小原の手による地図は、町教委が補充調査して完成させ、現在まで保護協議の際の資料として活用されてきた。先の小宮山・小林・清水の例も含め、彼らの活動があったからこそ、遺物がほとんど採集できなくなった現在でも、過去に存在していた遺跡の位置を知ることができるのである。こうした地元の研究家の活動は真田町の考古学史を考える上で、高く評価されるべき業績であろう。

第５図　雁石遺跡の発掘調査（昭和60年）

その後、『真田町誌歴史編』の編纂に際し、平成8（1996）年3月から7月にかけて、考古部会編纂委員の川上元、倉澤正幸、和根崎剛が、町内遺跡の現況確認調査を実施した。調査は今回行った詳細分布調査の予備調査を兼ねたものと位置づけ、『県史』遺跡地名表に登録されている遺跡の現況確認を主な目的とし、必要に応じて表面採集調査を併せて行った。町内全域をカバーする調査は十数年ぶりのものであり、既に破壊されてしまった遺跡も多数見受けられた。調査はあくまでも現況を確認するにとどめ、範囲・性格などの検討は詳細分布調査に委ねることとした。



第6図　小原等が採集した唐沢岩陰遺跡の土器

7．城館跡の分布調査

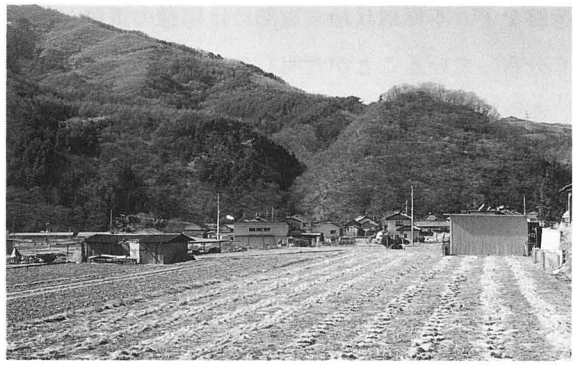
ここでは町内の城館跡の分布調査について、まとめておきたい。

昭和51～54（1976～79）年にかけて、一志茂樹、黒坂周平らが中心となり、町内の城館跡の所在調査ということで、松尾城・天白城・「真田氏本城」・真田氏館跡・横尾城・「内小屋城」・根小屋城・猿ヶ城・洗馬城の9つの城館跡と関連史跡の実地調査を行った。調査の結果、町内に分布する山城をまとめて「真田氏城跡群」という名称を与え、「中心城郭と称すべきものと、それをめぐる多くの支城的性格のものとによって構成されている一大城跡群である」と位置づけた。この調査は、「真田氏城跡群」の県史跡指定の準備として、行ったものである。町内の山城跡を対象にした初の本格的な調査であり、航空測量を用いて2m幅の等高線入りの詳細な地形図を作成し、さらに縄張図を作成している点など、大きな成果をあげた。

成果は報告書にまとめられ、真田氏を理解するテキストとして大勢に利用されてきた。ただし、ここでふれられている真田氏の祖と国牧との関係については更なる考証が望まれる。また、この調査の際に命名された「真田氏本城」及び「内小屋城跡」の名称は、今回の調査の結果をふまえて改名した。改名の理由については後に詳述する。

また、開発の波は山間部にまで及び、城館跡が破壊の危機にさらされるようになると、昭和54～57年には、県教委は県内の中世城館跡分布調査を実施し、1,200ヶ所余りの城館跡が把握された。真田町は川上元、坂下毅、山岸忠、横沢瑛が調査を担当し、報告書には天白城・「真田氏本城」・真田氏館跡・松尾城・横尾城・根小屋城・洗馬城・猿ヶ城・弥六城・「内小屋城」・遠見番所が収録され、「内小屋城」・遠見番所以外はおのおのの略測図が掲載されている。県下の城館跡を統一の基準で調査したものであり、略測図とはいえ、ほぼすべての城館跡の図が集成されている点で大きな成果をあげた。

真田町域で実施された遺跡分布調査について、6つの画期を設定して振り返ってみたが、学術的な調査、開発を見越した調査の大きくふたつに分けることができそうである。それぞれの調査は、大勢の方々が現地を踏査し、データを集めた集大成であり、回を重ねる毎に精度を増してきた。しかし、今回の調査では、過去の一覧表に収録されていた遺跡のうち、地図に位置が記入されていなかったため、どうしても遺跡地を特定できなかったものもある。それらについては今後更に追求・検討していきたい。過去の成果を充分に生かしきれたどうか疑問であるが、今



第7図　根小屋城（高い城・低い城）跡

回の詳細分布調査は以上のような業績を基礎として行い、次に掲げたような成果と課題を残した。

分布地図・一覧表	作　成　者	作成年	収録数	内　訳			
				包蔵地	古墳	城館跡	その他
小縣郡史	小県郡役所	大正11年	35	11	16	8	0
信濃史料	信濃史料刊行会	昭和31年	119	97	21	0	1
全国遺跡地図（長野県）	文化財保護委員会	昭和42年	86	63	22	0	1
真田町遺跡分布地図	長野県教育委員会	昭和52年	115	87	27	0	1
長野県史 遺跡地名表	長野県史刊行会	昭和56年	194	161	32	0	1
全国遺跡地図 20 長野県	文化庁	昭和58年	117	91	25	0	1
真田町の遺跡	真田町教育委員会	平成12年	202	150	29	16	7

※その他は、墓址、埋蔵銭など

第８図　遺跡一覧表・分布地図の収録数の変化

2　調査をふりかえって　－その成果と課題－

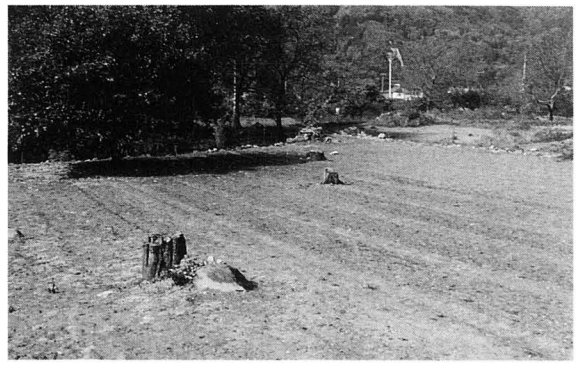
1　遺跡詳細分布調査

調査は平成９～11年度の３ヶ年計画で、町内を本原・傍陽・長の旧３ヶ村単位に分割して実施した。調査は調査員１名と調査補助員２名の計３名で行った。年次を追って、それぞれの地区における調査の成果と課題をまとめてみたい。

・本原地区

平成９年度に実施した本原地区では、南原、鶴巻、東出早遺跡など、新たに13ヶ所の遺跡を発見した。大沢川によって形成された扇状地の末端部に広がる台地で、日当たりも良いので、遺跡が多く存在する可能性は事前にも認められた。すでに宅地となったり、圃場整備事業を実施し地形が大きく変化した地域が多かったので、調査対象とした面積は旧３ヶ村中もっとも狭かったが、遺跡の分布密度は濃く、新発見が相次ぐ結果となった。

山崎遺跡と竹室遺跡は、これまで地字の関係から分割して登録されていたのだが、調査の結果、同一の遺跡と認定し、よく知られている山崎遺跡の名称を残した。また、大沢川を挟んで隣接する包蔵地は、今回新たに発見された遺跡であり、北町上遺跡という名称を与えた。両遺跡を合わせると１万㎡以上の規模をもち、縄文中期の遺物の出土量が特に多く、古墳・平安時代の遺物も多く含まれる。山崎遺跡は平成９年に分譲住宅の建設の際に小規模の発掘調査を行っているが、縄文中期と平安時代の住居址を１軒ずつ検出している。また、北町上遺跡では耕作の際に石組みと焼土が出土したことがあるという。表面採集した遺物を検討すると、両遺跡は同時期に存在していたことが推定される。また、近接して南町上、表木遺跡など、縄文中期と古墳・平安時代の遺物を出土する遺跡が存在しており、南番匠Ｃ、東出早、境田、南原遺跡など、本原扇状地末端部には同様の遺跡が数多く分布していることが判明した。



第９図　新発見の北町上遺跡

本原地区の調査では、弥生時代の遺跡を検出することが当初の目的のひとつであった。堰合、花水遺跡などで磨製石鏃や後期の土器片が出土した記録があり、遺物は散在しているものの、まとまって出土した事例はない。今回も町下遺跡で磨製石鏃を１点採集したのみであった。本原に隣接する上田市殿城地域では後期の集落址が発掘調査されており、以前

から、地形も標高もそれほど違わない本原にも集落址の存在が予想されていたが、今回の調査でも確認できなかった。

本原地区が長・傍陽地区と比べて特徴的なのは古墳が存在することである。今回、既に滅失した15基も含め、30基を把握した。すべて後期の規模の小さい古墳である。これまで古墳とされてきた的山古墳、こふじ塚古墳は古墳とは認定し得なかった。また、『小縣郡史』、『長野県史』遺跡地名表等に掲載されている「広崎古墳」、「広瀬古墳」は広山寺古墳を指す（転記ミスか？）ものと考えられるので、除外した。今回把握できた数以上の古墳が、以前は存在していたものと思われる。文化財保護法施行以後に滅失したものも多く、残念でならない。

第10図　こふじ塚の碑

・傍陽地区

傍陽地区の調査の成果として特記できるものに、異形部分磨製石器（トロトロ石器）を出土した遺跡を確認できたことである。この地点は新発見であり、和平遺跡という名称を与えた。異形部分磨製石器とは縄文時代早期の押型文土器に伴うものとされ、用途など、不明な点が多い石器である。当町では既に菅平の三日城遺跡での出土が知られているが、全国的にみるとまだまだ事例が少ない。出土地点は入軽井沢集落近くの畑で、時期を変えて数度の表面採集を実施したが、黒耀石のフレイク等は採集できたが、土器片を見つけることはできなかった。今後も継続して調査していきたい場所である。

第11図　新発見の宮原遺跡

傍陽地区での課題のひとつに、古墳の所在を確認するということがあった。本原の古墳群はすべて神川の左岸に存在し、古墳時代の集落址も藤沢、境田、南町上遺跡などが存在する。しかし、右岸には四日市遺跡の集落址があるにもかかわらず、古墳がひとつも把握されていない。そのため、長・横尾から傍陽・曲尾にかけて重点的に調査したが、確認できなかった。この付近は昭和40年代初めに圃場整備が実施されており、その際に破壊されたことも考慮し、耕作者の方々に聞き取りをしたが、塚があったという記憶はないとのことである。

傍陽の地蔵峠周辺では、山林内で縄文時代の石鏃や土器片などが単独出土している遺跡が多い。今回はこれらのすべての位置を特定することは叶わなかった。遺物は炭焼きや山林作業の際に見つかったものがほとんどである。今後も継続して調査していきたいと考えている。

傍陽での新発見の遺跡は和平、宮原など10ヶ所を数える。

・長地区

長地区の調査はまず菅平高原から開始し、高原野菜の収穫時期で耕作土が動く機会をねらって行った。畑で作業中の方が多く、聞き取りも同時にできたのは幸運だった。また、採集した遺物を実見させていただいたことも何回かあり、皆さんが遺物を大切に扱っていることに対し、頭の下がる思いであった。しかし、菅平での分布調査は実に困難がつきまとった。高原野菜の栽培に大型の耕作機械が導入され、畑がローム層付近まで深く耕作され、現在では遺物がほとんど採集できなくなってしまった。かつての調査で遺跡地とされた場所、特に西組や東組、十ノ原の唐沢川周辺などでは、ほとんどの遺跡は壊滅している。西組F、稲荷神社、つばくろ下遺跡などの山麓・山腹の遺跡や、陣ノ岩、前熊久保岩陰遺跡など、遺物を採集できたのはわずかであった。

また、菅平では地名の探索に時間を費やした。菅平高原には菅平と十ノ原のふたつの地字しかなく、遺跡名には小々字や通称などを使用してきた。そのため、聞き取りをしても、住民でも既に分からなくなっている地名がかなりあり、遺跡の同定に苦労した。いたごや、のぼろ、しょてばら遺跡などがその例である。これらは大日向の皆さんが開墾して畑としていた所である。

第12図　押型文土器を出土するのぼろ遺跡

成果のひとつとして、縄文早期の押型文土器を出土する遺跡が新たに確認されたことが挙げられる。のぼろ遺跡は『県史』遺跡地名表に収録されており、加曽利E式土器や堀之内式土器など中期・後期の遺物の出土が記録されている。しかし、遺跡の正確な位置はこれまで不明であった。このたびの調査で、十ノ原の「のぼろ」と呼ばれる開墾地を聞き取りにて突き止め、表面採集調査を実施したところ、楕円・山形押型文の土器片、前期初頭の土器片、砥石などを採集することができた。菅平高原の押型文遺跡群のなかではもっとも標高が低く、分布圏の東端に位置する。

菅平地区を除く長地区には四日市や、雁石遺跡のように発掘調査された大規模な遺跡が存在する。これらは全面発掘された訳ではなく、遺跡の範囲も明確ではなかったので、遺物を拾いながら改めて範囲の設定を行った。その結果、雁石遺跡では周知の範囲外に遺物の採集できる場所が新たに確認できた。

長地区では新発見の遺跡は十二塚原、山家の館跡推定地出土銭など、17ヶ所を数える。

2　山城縄張図作成調査

平成10・11年度の２ヶ年をかけて町内の山城跡を実地調査し、縄張図を作成した。従来から知られていた山城はもちろんであるが、さらに文献や地名、伝承をもとに現地踏査を行い、今まで把握されていなかった山城や遺構も確認できた。山城群の調査は昭和54年以来のものであり、縄張図ひとつとっても、山城の研究は当時とは比べ物にならないほど進展しており、各山城について再検討が必要とされていた。

城館跡の名称の変更

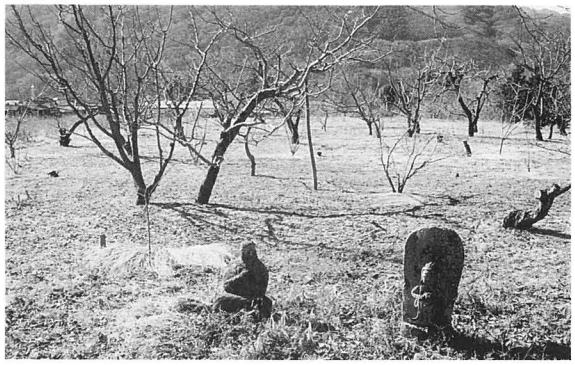
今回の調査は遺構の確認と縄張図の整備が目的であり、個々の山城、あるいは城跡群の性格などについての検討は行わないこととする。しかし、今回の調査結果をふまえ、名称の変更が必要と考えたものについては改名した。ここでは、その詳細について述べたい。

『小縣郡史』などによると、十林寺区の「真田氏本城」は真田山城、松尾（新）城、見返城、住連寺城などの名があり、地元では城山と呼ばれて親しまれている。里伝によれば、真田幸隆の築造で、昌幸が上田城へ移った際に廃されたという。「本城」という名は、昭和54年までの調査の結果、本郭等の遺構の規模が大きいこと、この城が山城群を見渡せる要衝に位置することなどから与えられた名称である。今回の調査の結果、「本城」という名称はあえて使用せず、従来から使用されている真田山城という名称を用いた。松尾（新）城という名前もかつて定着していたが、角間の松尾城と混乱してしまうため、真田山城とした。

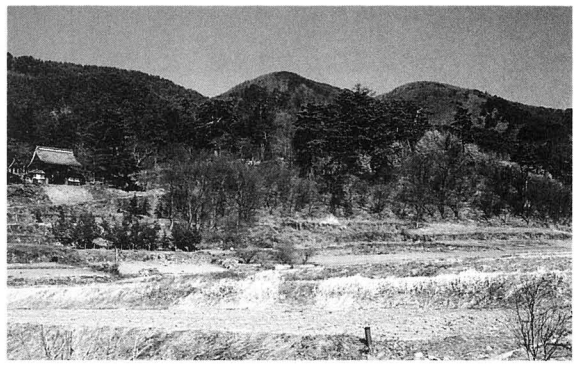
「内小屋城跡」の名称も、館跡を指すものとして不適切であり、範囲も打越城を含めて町史跡に指定されていたため、それぞれ、内小屋の館跡推定地、打越城跡の名称を与え、ふたつに分けて考えることとしたい。

新たに発見した山城・遺構・遺物

今回の調査成果のひとつとして、長尾城の新発見が挙げられる。この山城は城関連の地名や伝承が残っていた訳ではなく、これまで注目されなかった場所であった。しかし、真田町誌の編纂に係る調査で、町



第13図　内小屋の館跡推定地



第14図　打越城（古城）跡

誌編纂室の柳沢孝雄が、横尾村の庄屋を務めた青木家の所蔵文書のなかに、長尾城に関する記述を発見したことが発端で、今回の新発見につながった。

青木家所蔵の古文書「長亨日記」は、長亨２年（1488年）頃に横尾丹波守吉信が記したものを、近世になって書き写したものと考えられる。ここに以下のような記述がある。

「長亨日記　　従五位下横尾丹波守平朝臣吉信記

一　人皇百四代後土御門院御宇横尾丹波守吉信禁裏……　（中略）　……長亨二年戊申三月帝都ヨリ采地横尾下テ村上顕國ニ属シ佐久小縣ニ於武田勢ト大ニ鋒ヲ交エ屢軍功ヲ顕ス

一　同年戸石城ノ要害ヲ兼ネ横尾ニ三ケ所城ヲ築ク　打越城　長尾城　此二ケ所ハ番城ト〆水内高井埴科更科佐久小縣諸士交代デ之ヲ守ル　本城　ハ横尾丹波守吉信ノ居城也

（後略）　　」

この古文書には書き写した年代は記されていないが、字体、紙質等から近世の古文書とみられ、青木家が庄屋を務めていた際に、何らかの理由で作成されたものと考えられる。研究者の教示によれば、この文書は、『甲陽軍鑑』等の影響を受けて脚色されている部分が随所にみられるとのことである。ただ、原本となるものがあったはずで、地名が残る打越や長尾といった城については、その存在について信頼性があると考えられていた。

その折、やはり江戸時代に描かれた横尾周辺の絵図面に、地元の皆さんが長尾と呼んでいる場所に「城」という文字と郭が描かれているのを柳沢が発見し、「長尾城」の姿が徐々に具体的なものとなっていった。今回の現地踏査はこうした柳沢の研究成果を受けて行ったものである。

調査の結果、郭と堀切、土塁が確認され、比較的古い要素を残す山城であることが判明し、地元の皆さんが「古城」と呼んでいる打越城、上記の文献の「本城」とみられる尾引（横尾）城と合わせて、横尾氏が関わった城として認識できるようになった。長尾では山林作業を行っているものの、あまり人が足を踏み入れない場所であり、自然崩壊によるもの以外は破壊の危険性は少ない。

弥六城は『小縣郡史』によれば、原弥六なる人物によって造られたという伝承があるという。今回の調査で、これまでの文献では詳しく紹介されていない、石塁で囲んだ削平地が確認された。石垣を用いて土留めをしている箇所もあり、これまでの見解のように、ただ単に物見の施設と考えて良いか疑問である。

今回の調査で発見した遺物について触れたい。根小屋城で１片、尾引城で２片の石臼破片を採集した。町内の山城で遺物を採集した報告は、今回が初めてである。大きさは一般的なもので、いわゆる茶臼の類とは異なる。両者とも中腹に設けられた段郭での出土である。また、尾引城の直下の畑から中世の内耳土器、かわらけ、陶器の破片を採集した。

調査の目的が縄張図の整備であるため、それぞれの山城の性格、そして、町内の山城群が「真田氏城跡

群」としてとらえられるかという問題について等、検討していない課題はたくさん残っている。今回作成した縄張図を材料にして、今後検討を加えていきたいと考えている。

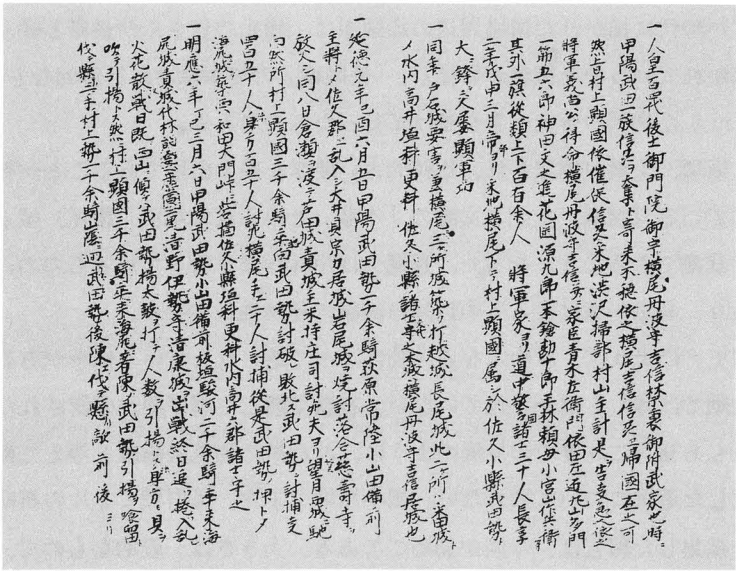
第15図　弥六城跡の石塁

今回の詳細分布調査は、真田町の埋蔵文化財の状況を明らかにして、研究、教育普及、保護協議の際の資料として役立てることを目的に実施された。3年間にわたる調査では、町内をくまなく踏査し、できる限りの情報収集に努めた。しかし、相手が埋蔵文化財という性格上、この報告書に記載されている範囲が完全なものとは言い難い。今後、新たに発見・確認された事項については、補足・訂正を行い、さらに分布図の整備を進めていきたい。

第16図　石臼の出土状況（根小屋城跡）

当町がこれまで使用してきたすべての遺跡分布図には、城館跡は記入されていなかった。中世考古学という分野の進展により、城館跡その他の遺跡・遺構が、文献史学の分野だけではなく、考古学的にも考察されるようになった。このような状況を考慮し、今回作成した分布図には、中世の城館跡の他、墓址、埋蔵銭なども積極的に収録した。さらには今後、近世の埋蔵文化財も調査対象となる事例が生じることもあろう。「遺跡」と呼ぶものの下限はいったいいつまでのものか。議論の分かれるところであろう。最近では「近代遺跡」または「戦争遺跡」という言葉もよく使用される。今回の調査では中近世の遺跡は、必要と思われるものを担当者の裁量で登録した。この点については早急な基準作りが望まれるものである。

この調査にあたって、さまざまな場面でご協力・ご教示下さった多くの町民の方々、研究者の方々に対して、末筆ながら深く感謝申し上げます。



第17図　『長亨日記』（青木勝秀家文書）

【参考・引用文献】

小県郡役所　大正11(1922)年　『小縣郡史』

藤沢直枝　昭和10(1935)年　『歴史上より見たる菅平』

信濃史料刊行会　昭和31(1956)年　『信濃史料』第１巻（上・下）

長野県教育委員会　昭和42(1967)年　『新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書－昭和41年度－』

文化財保護委員会　昭和42(1967)年　『全国遺跡地図（長野県）』

長村財産区　昭和42(1967)年　『長村誌』

長野県教育委員会　昭和45(1970)年　『農業振興地域等開発地域埋蔵文化財緊急分布調査報告書－昭和44年度－』

森嶋　稔・川上　元　昭和45(1970)年　『菅平の古代文化』菅平研究会

長野県考古学会　昭和56(1981)年　『長野県埋蔵文化財白書』

長野県史刊行会　昭和56(1981)年　『長野県史』考古資料編１－１遺跡地名表

真田町教育委員会　昭和57(1982)年　『真田氏城跡群』

文化庁　昭和58(1983)年　『全国遺跡地図20　長野県』

長野県教育委員会　昭和58(1983)年　『長野県の中世城館跡－分布調査報告書－』

佐久市教育委員会　昭和59(1984)年　『長野県佐久市遺跡詳細分布調査報告書』

小諸市教育委員会　昭和62(1987)年　『長野県小諸市遺跡詳細分布調査報告書』

「長野県史をふりかえる」発起人会　平成４(1992)年　『長野県史をふりかえる』

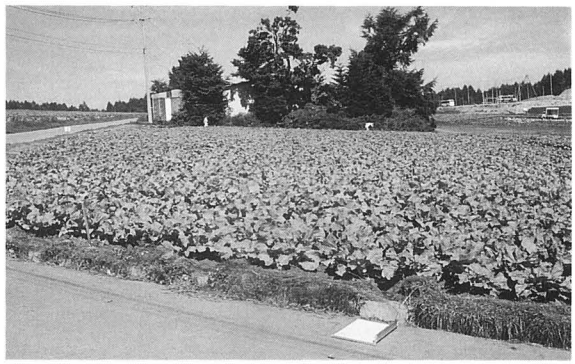
池田町教育委員会　平成６(1994)年　『池田町の遺跡－遺跡詳細分布調査報告書－』

真田町教育委員会　平成９(1997)年　『町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』

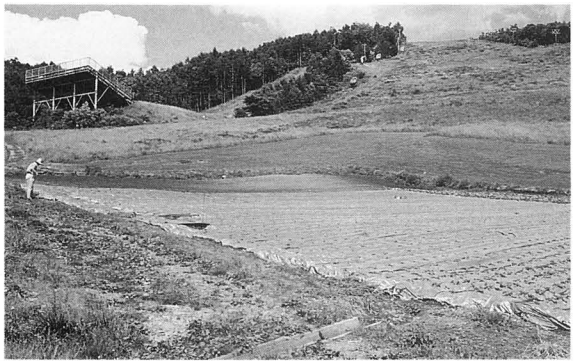
真田町誌刊行会　平成10(1998)年　『真田町誌』歴史編上

宮坂武男　平成10(1998)年　『図解 山城探訪　上田小県資料篇』

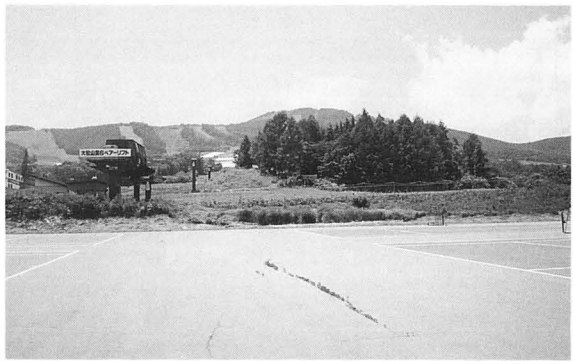
1　西組Ａ遺跡



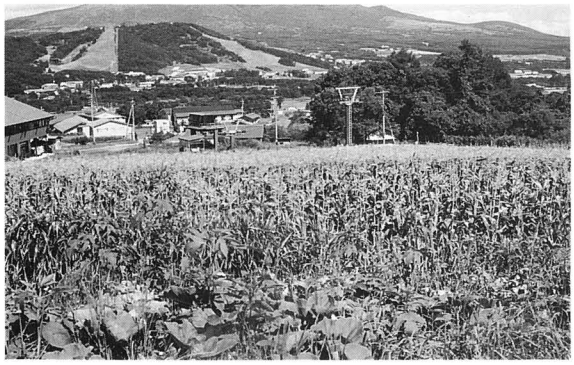
2　西組Ｆ遺跡



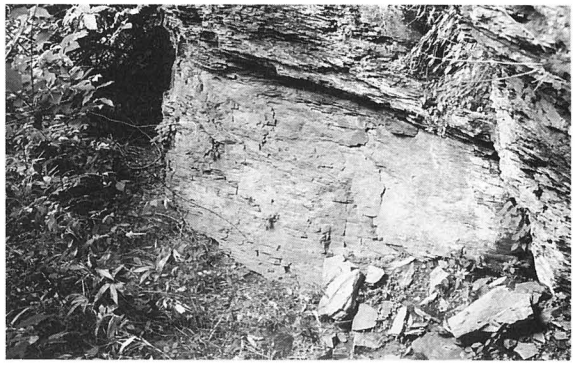
3　ジャンプ台下遺跡



4　稲荷神社遺跡



5　つばくろ下遺跡



6　陣ノ岩岩陰遺跡

7　前熊久保岩陰遺跡

8　大洞Ａ遺跡

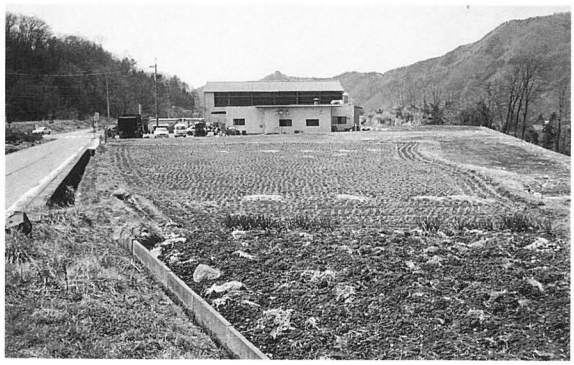
図版 2

9　しょてばら遺跡

10　土合遺跡

11　和熊Ｂ遺跡

12　角間遺跡



13　山遠家遺跡

14　新地蔵峠遺跡

15　樋ノ口遺跡

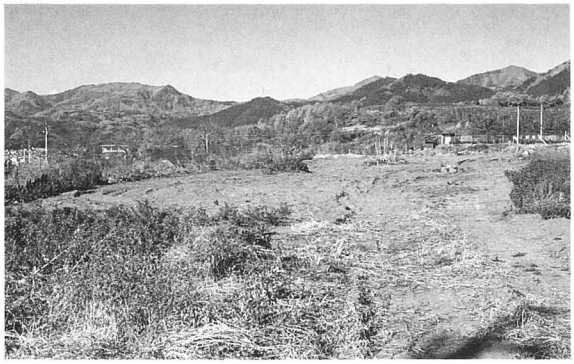
16　日影遺跡

17　宮ノ前遺跡

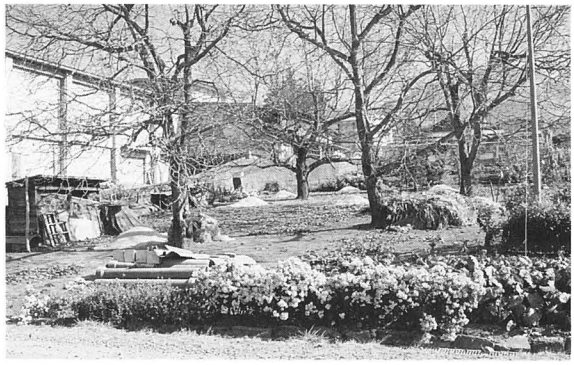
18　下塚古墳群 1 号墳

19　矢倉城（櫓城）古墳

20　花水遺跡

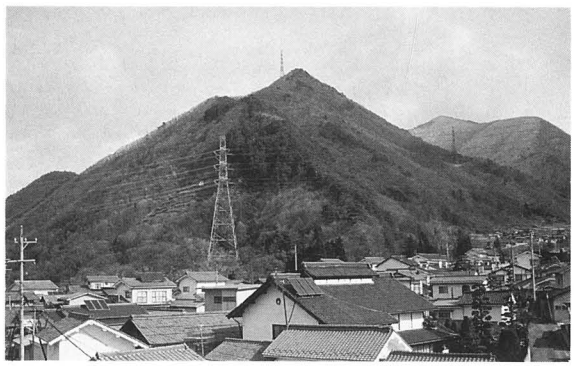


21　山崎遺跡



22　南町上遺跡

23　町下遺跡



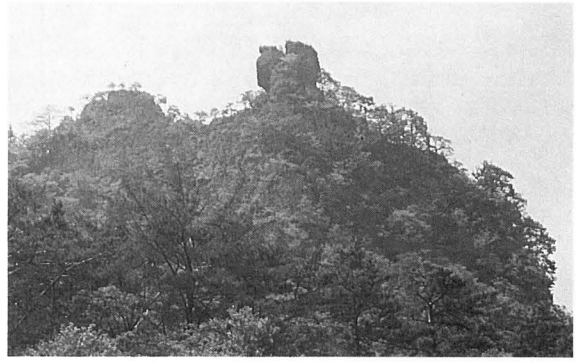
24　松尾城・遠見番所跡 遠景

図版 4

25　松尾城跡 石垣

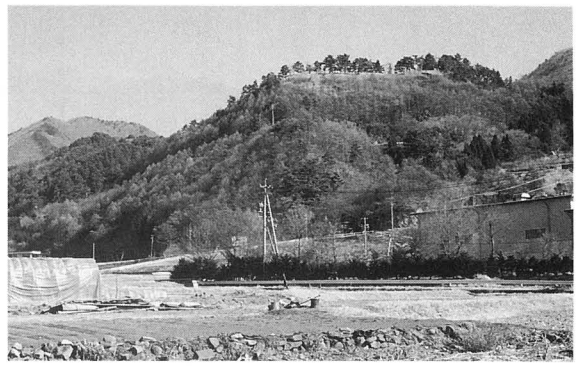
26　遠見番所跡

27　上野屋敷の館跡推定地

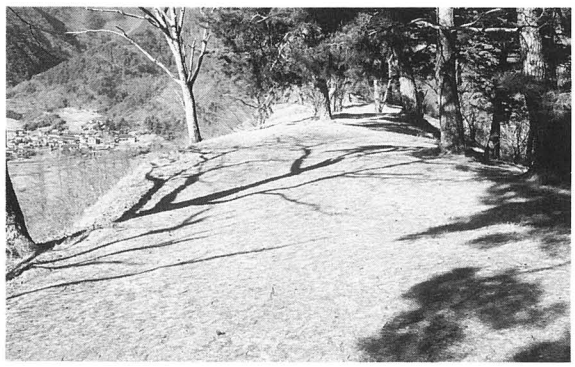


28　鬼ヶ城 遠景

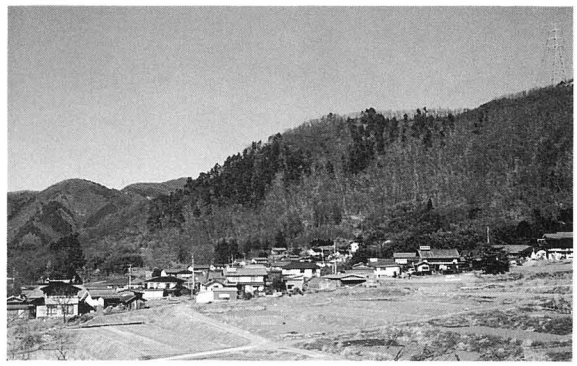
29　鬼ヶ城 削平地



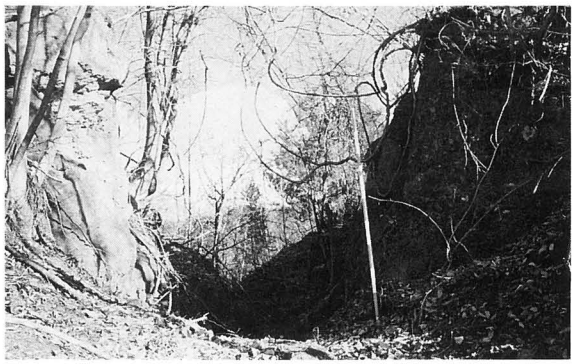
30　真田山城（真田氏本城）跡 遠景



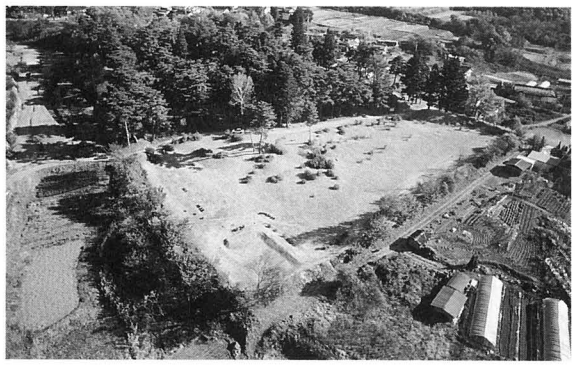
31　真田山城（真田氏本城）跡 主郭



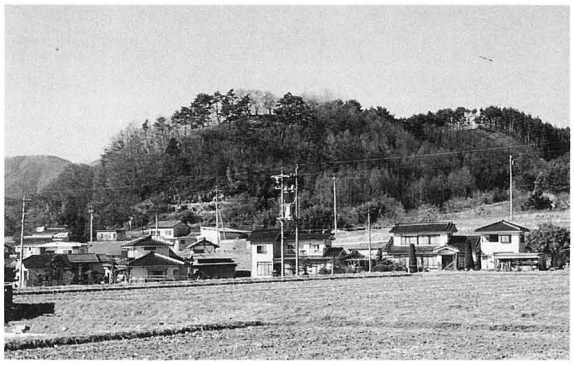
32　天白城跡 遠景



33　天白城跡 堀切



34　真田氏館跡（県史跡）

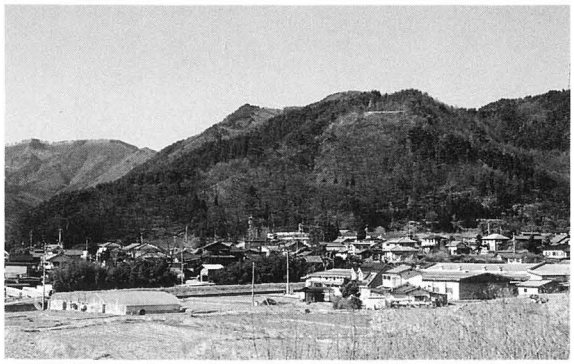


35　尾引城（横尾城）跡 遠景

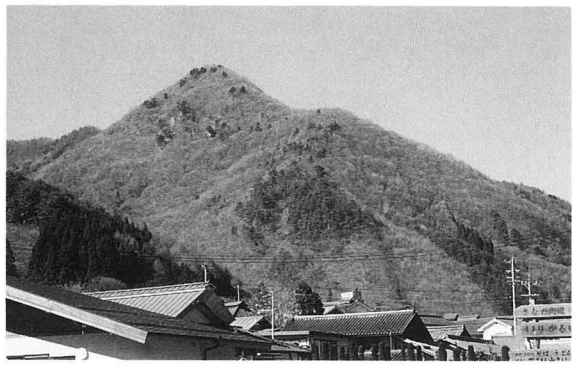
36　尾引城（横尾城）跡 主郭

37　長尾城跡 土塁

38　根小屋城 石垣

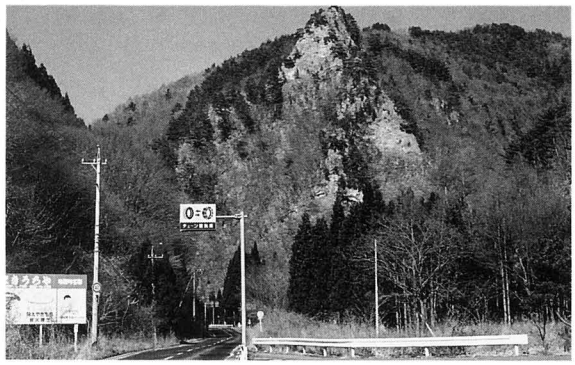


39　洗馬城跡 遠景



40　弥六城跡 遠景

図版 6



41　猿ヶ城跡 遠景

42　猿ヶ城跡 削平地

報告書抄録

ふりがな	さなだまちのいせき		
書名	真田町の遺跡		
副書名	遺跡詳細分布調査報告書		
巻次			
シリーズ名	真田町埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ番号	第12集		
著者名	和根崎　剛		
編集機関	真田町教育委員会 TEL0268(72)2655　http：//www.town.sanada.nagano.jp/		
所在地	〒386-2201　長野県小県郡真田町大字長7199-1		
発行年月日	平成12(2000)年3月24日	印刷	ほおずき書籍株式会社　長野市柳原2133-5

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
石戸山遺跡 ～ 鶴巻遺跡	長野県小県郡 真田町大字長 字菅平 大字本原字下原		1 ～ 202			平成9年 10月1日 ～ 平成12年 3月24日		遺跡詳細 分布調査

主な所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
唐沢B遺跡	包蔵地	旧石器～縄文草創期	土坑	局部磨製石斧・尖頭器	神子柴系石器の優品
東組E遺跡	包蔵地	縄文早期		押型文系土器	
三日城遺跡	包蔵地	縄文早期		部分異形磨製石器	
和平遺跡	包蔵地	縄文早期		部分異形磨製石器	
四日市遺跡	包蔵地	縄文前期～中期	住居址	関山式・加曽利E式	
山崎遺跡	包蔵地	縄文前期～中期	住居址	加曽利E式・土偶	
雁石遺跡	包蔵地	縄文後期～晩期	住居址	佐野式・氷式	
たかや遺跡	散布地	弥生後期		樽系	
南町上遺跡	包蔵地	古墳後期		鬼高式	
町下古墳群	古墳群	古墳後期	古墳現存4基	須恵器（瓶）	
山本畑遺跡	包蔵地	平安時代	住居址	土師器・須恵器耳皿	平安時代の集落
長尾城跡	城館跡	中世	本郭、堀切		新発見の山城跡
役場敷地出土銭	埋蔵銭	中世		古銭277枚	
日向畑遺跡	墓址	中世	宝篋印塔・五輪塔	焼骨・古銭・鉄製品	
他					

真田町の遺跡

―― 遺跡詳細分布調査報告書 ――

平成12年3月24日　発　行

編　集　　真田町教育委員会

発　行　　真田町教育委員会

印　刷　　ほおずき書籍株式会社

真田町の遺跡 付図

1．真田町遺跡分布図（1/30,000）
2．松尾城・遠見番所跡縄張図／鬼ヶ城地形図（1/2,500）
3．真田山城（真田氏本城）跡／天白城跡縄張図（1/2,500）
4．尾引城（横尾城）跡／長尾城跡／打越城跡縄張図（1/2,500）
5．根小屋城跡／洗馬城跡縄張図（1/2,500）
6．猿ヶ城跡／弥六城跡縄張図（1/2,500）